



技術士だより・九州

公益社団法人 日本技術士会九州本部 冬季号<第139号> (令和6年4月15日発行)

「通潤橋」国宝指定 近世水利土木施設石橋の傑作



通潤橋は、2023年9月25日国宝に指定されました。橋などの土木構造物が国宝指定されたのは全国初で、県内の国宝（建造物）指定は、青井阿蘇神社（人吉市・2008年指定）以来2件目である。通潤橋は、江戸時代末期の1854年（嘉永7年）、水源に乏しい白糸台地に農業用水を送るため、惣庄屋・布田保之助の指揮で建造され、橋長約78m、幅約6.6m、水面からの高さ約21mで、近世のアーチ橋としては国内最大級となっています。

今回の国宝指定では、「技術的完成度の極めて高い、近世石橋の傑作」として評価されました。ぜひ、現地で先人が建設した橋を眺めて当時の様子などを想像してください。

熊本地震の復興のシンボル「新阿蘇大橋」完成



2021年3月7日に熊本市と阿蘇を結ぶ「新阿蘇大橋」が開通しました。「新阿蘇大橋」は、旧橋より600m下流の急峻な峡谷に橋長525m（鋼3径間連続桁橋（115m）＋鋼単純箱桁橋（65m）＋PC3径間連続ラーメン箱桁橋（345m））で建設され、橋脚の最大高さ97m、最大支間長165mとして国内有数の規模となりました。この橋の特徴として推定活断層付近の橋梁を連続桁とせず、単純桁にすることで、被害を最小化にとどめ復旧の迅速化が可能となっています。ぜひ、熊本地震から復旧復興した迫力ある橋を視察してください。

県支部長 ^{たかやま} 高山 ^{ゆうじろう} 祐二郎 （建設・熊本）

目次

巻頭言	1
私の提言	2
声の広場	3
熟練技術士の声	5
若手技術士の声	6
官庁技術士の声	7
私のチャレンジ	8
修習技術者の声	9
地域の話題	9

次

土木遺産シリーズ（35）	11
ミニ特集	12
中央・統括本部情勢	16
委員会・部会報告	17
支部だより	27
CPD	29
会員ニュース	30
協賛団体会員	31

C P D 記録の勧め

九州本部・副本部長 ^{すえまつ}末松 ^{まさのり}正典
(機械、総合技術監理・北九州)



技術士としての活動においては、力量の維持や向上に資するために継続した研鑽が求められている。技術士各位においては、いろいろと工夫されて取り組まれていることと思うが、私が行っている方法をご紹介したい。何らかの参考になれば幸いである。

【いろいろなイベント開催の情報入手】

技術士として考えられるイベントは多様となっている。主なものとして技術士会の役員会や委員会、技術士会が実施するC P D研修会及び講演会、その他、外部団体による委員会、外部団体が開催する教育や講演会等が考えられる。

九州本部には9つの委員会がある（総務・企画委員会12名、広報委員会13名、地域産業支援委員会14名、研修委員会21名、倫理委員会24名、防災委員会22名、青年技術士交流委員会15名、北九州地区支部支援委員会13名、試験業務支援委員会9名）。また、部会は環境部会（13名）、建設部会（13名）、みどり部会（9名）、ものづくり部会（15名）の4つからなっている。

【各イベントへの参加と記録書の作成】

上に示したいろいろなイベントに参加した後には記録書を作成するよう努めている。書式はイベントにより多少違いがある。役員会や委員会の場合は、報告事項、審議事項、その他（連絡事項など）の内容を記録し、それらに対して、個人的な見解やコメントを含めて記載するようにしている。C P Dにおける技術報告の場合は、講演いただいた内容を簡単に記した後に、個人的な見解も記載するように努めている。個人的見解を記載する理由は、その時に自分がどのように感じたか、が大事だと思ったからである。また、後日読み返した場合にどのように感じるか、さらに変更や修正するかに利用したいと思ったからである。

例えば2023年10月28日（土）に行われた“産学官合同セミナー”において、国土交通省九州地方整備局の方から「メタバース（コンピュータ上に仮想社会を構築し、自分の分身（アバター）で参加する方法）により参加する手法」を構築しているとのご紹介があった。本セミナーを通じて災害時対応や土木工事での改良案のイメージ作りに活用できそうであると理解した。また、農林水産省・九州農政局の方から「植物工場や野菜工場等建物内農業は定着している。留意点はコスト高となるので、ビジネスとして成立する事前検討と、そのシステム構築が重要」との紹介では、技術士会としてアドバイスなど検討する余地があると感じた。

【参加記録の保存・保持】

各イベントを記録して残す件数は年間に50件程度である。それらの記録は、イベントの際に受領や配送された資料類と共にキングファイルに閉じて保存することになっている。年度（4月～3月）毎に連番を付して（例えば、“23001”、“23030”等）、受領した資料類を添えてファイリングし、いつでも振り返りが可能なようにしている。上記で紹介した“産学官合同セミナー（2023年10月28日（土）実施）”は、連番として「28028」を付し、「受講証」「黒崎靖介日本技術士会会長のご挨拶文」、及び基調講演者と各機関や企業（5者）における対応状況を紹介した「講演シート」を受領した。こういった資料類と共に、本セミナー終了後に講演された方への質問を通し、熊本地区に大手有力企業が進出している背景なども理解できたことは有益だったと思っている。

所属：末松技術士事務所
(E-mail: suematsu@hkg.odn.ne.jp)

ナショナルミニマムとしての インフラと「攻勢終末点」

宮崎県支部事務局長 みつどめ 満留 やすひろ 康裕
(建設、総合技術監理・宮崎)



1. はじめに

現代社会を支えるインフラには新設、更新、維持管理（補修・補強）、廃止（解体・撤去、放置）（以下、インフラの新設等と記す）の各段階がある中で、それぞれ時間と資源の投入が必要であり、これらは定められた明確な目標を有限期間・有限資源で達成する活動になると考えます。

我が国の交通インフラや上下水道の都市インフラ、エネルギーインフラは太平洋戦争後から高度経済成長期を経て整備が進み、日本の社会・経済、国際競争力を支えてきました。また、治水・砂防事業等は国民の生命・財産を守る重要な役割を果たしてきました。一方で将来の人口減少に伴うインフラ需要、インフラの新設等に必要な費用負担力の変化、またストックの増加に伴う維持管理の現状等、課題があると思われますので、それらに対する私見を述べさせていただきます。

2. ナショナルミニマムにおけるインフラ

日本においてナショナルミニマムという用語は「国土の均衡ある発展」という概念と結びつき「様々な行政分野において国民がどこでも同等の公的サービスが受けられる状況（又は公的サービスの水準）」として用いられてきました。インフラの新設等もこの概念等をもとに進められ、目標として設定されてきたものと考えます。

3. 日本の将来人口動態

国立社会保障・人口問題研究所が令和5年4月に発表した日本の将来推計人口は、約50年後の2070年に現在の7割となる8700万人に減少するとされています。また、民間の経済人や研究者などの有識者で構成する「人口戦略会議」は提言書「人口ビジョン2100」の中で、2100年にはおおよそ6300万人に半減と推計、危機感を表した上で8000万人で人口が定常化することを目標に「未来選択社会（未来として選択し得る望ましい社会）」の実現を提案しています。このような状況の中、インフラの便益は基本的には「ヒト」が享受するものであることから、インフラ新設等に関するパラダイムシフトが必要ではないかと思えます。

4. インフラ新設等に求められる視点を考える

ところで、「攻勢終末点」という軍事用語があり、「攻撃側がこれ以上攻撃を続ければ兵站の負担が大

きくなり、優位を継続することが不可能になる」との意味だそうです。また、兵站とは作戦計画に従って兵器や兵員などの資源を確保・管理し、補給するまでの全ての活動となります。これらをインフラの新設等に例えれば、ストックを積み上げていく中で維持管理・更新に投入する資源が必要となり、新設を含めた適切な攻勢終末点を設けなければインフラ全体が危機に瀕する可能性があるということになるのでは、と私は解釈しています。

5. インフラの新設等に確保すべき資源

インフラの新設等についての攻勢終末点は、将来人口等を踏まえて、目標とするナショナルインフラミニマムと投入可能な資源とのバランスを考慮して決定されるべきと考えます。攻勢終末点を可能な限り拡大・維持するためには、ヒト・モノ・カネという資源を確保・調達し、兵站というオペレーションでの確に運用しなければなりません。各資源を支える人口が減少する中では、これらの量的増加を期待することは難しく、人材の能力向上、技術の継承、新技術の開発、資金調達の多様化等が必要です。

さらに、インフラ管理者という組織はインフラが存在する限り、活動していくことが求められますが、人口減少に伴い、例えば小規模自治体ではその機能維持自体が危ぶまれる組織があり、しかもその時期は数十年以内と既存インフラの供用期間内に訪れる可能性が指摘されています。

このため、特にインフラ管理者のインハウスエンジニアには資源調達とオペレーションにも主体的に関わり、過去の経緯・経過を踏まえつつ、自らの世代を超え次世代を見通した長期的な視野に立った役割を果たすことが求められる時代だと思います。

6. おわりに

45年以上インフラの新設等に関わってきた者として、かつて「永久構造物」・「メンテナンスフリー」という概念に囚われ、目標を達成し続けるための「兵站」への想像力不足に反省の思いがあります。「素人は戦略を語り、専門家は兵站を語る」という言葉があります。100年以上先に蓄積されているインフラの存在が次世代の重荷になることなく、その機能維持に必要な「兵站」が途切れず、受益者の期待に応え続けていることを期待します。

(E-mail : y.mitsudome2019@gmail.com)

離島「島野浦島」 に下水道整備

ながの ひろし
永野 浩

(上下水道、総合技術監理・宮崎)



1. はじめに

私は、昭和59年に延岡市役所に入庁し、様々な部署で色々な経験をさせてもらいました。その経験の中から最も貴重な体験であり技術士受験のきっかけとなった業務について書きたいと思います。

私が入庁して11年目に突入した平成7年から「島野浦地区漁業集落環境整備事業」を推進する課に異動することになりました。所管課としても初めてとなる事業であり、土木技師が必要ということで私に白羽の矢が立ったのではないかと思います。しかし、私も下水道に携わることが初めてだったため、小規模下水道の当初計画から建設工事、そして供用開始から維持管理までの7年間は、苦労の連続でした。

島野浦地区というのは、延岡市にある離島で、名称は「島野浦島」^{しまのうらとう}です。その当時の人口は、1,250人（現在は698人）で、市内の中心部から北東へ約12km、日豊海岸国定公園の一部であり、美しいリアス式海岸に囲まれた島です。ちなみに町の名前は「島浦町」^{しまうらまち}といいます。

2. 下水道を整備する上での問題や課題

島浦町の産業の中心は、漁業であり、魚ではイワシやサバなどが水揚げされ、その魚を使った水産加工も盛んです。また、島内は家屋が密集し、道路幅は狭く高低差のない町で、ほとんどの家は浄化槽を設置するスペースがなく水洗化されていませんでした。そのため、住民の強い要望により島に下水道施設を整備することとなったのですが、漁師町であるが故の問題や課題が山積しておりました。例えば、島の人々は、取れた魚を各家庭で調理するのに、まず魚の解体洗浄工程を屋外用流し台で行うため、大量の汚濁負荷の高い血液や油分等が直接側溝に流され、そのまま海に放出されている状況でした。そのため、側溝や港では、においや虫の発生により環境悪化が非常に進んでおりました。また、この島浦町の環境整備事業を進める上で住民の皆さんには受益者負担金やトイレの水洗化を含めた排水設備の工事費用を負担してもらわなければいけません。さらに、島内の環境を改善するためには、下水道の普及率及び水洗化率の目標を100%にする必要がありました。

これらの課題を解決し、環境改善を進めるためには、事業の内容と効果を理解してもらわなければなりません。そのため、全世帯を対象とした説明会を繰り返し開催しました。

3. コミュニケーションの確立

初めに、下水道の仕組みについて説明を行い、雨水の侵入の恐れがある屋外用の流し台については下水道管に接続できないことを理解していただきました。また、皆さんには様々な費用を負担してもらわなければならないことなどをお願いしたところ、多くの家庭では早くから工事費などを積立していることがわかりました。この密接なコミュニケーションにより、島の環境整備の必要性が参加していただいた皆さんに伝わったのではないかと思います。

ようやく管路整備や下水処理場が完成することが出来たため、下水道管への接続申し込みを開始することになりました。すると、かなりの申請があり手ごたえを感じました。しかし、私が掲げた目標には届いてなかったため、再度説明会を開くことにしました。今度は、ターゲットを絞り女性を中心に説明会を開き、下水道に接続することが島の環境を良くすることにつながることを説明しました。また、小中学校を対象に施設見学を含めた下水道の講習会を実施し、子供たちにも下水道事業の大切さを学ぶ機会を作りました。

この工夫を重ねた説明会が功を奏したようで、申請していなかった多くの世帯は、「妻や子供からの後押しがあって申し込んだ」という話を聞きました。

その結果、供用開始から3年で100%の水洗化率を達成することができました。

4. 終わりに

様々な困難を乗り越えて事業は成功しましたが、住民とのコミュニケーションだけですべての問題や課題が解決した訳ではありません。下水処理施設への流入汚水の水質や汚泥の濃縮性など、技術的に解決しなければならないことも沢山ありました。しかし、技術的な解決法を探る中でもやはり決め手となったのは、住民の皆さんの協力です。私はこの経験があったからこそ技術士に挑戦しようと思いました。

余談ですが、事業が完了し、異動してかなりの年数がたった時、ある懇親会の場で女性の方から島浦町の港が前よりすごくきれいになったと聞いたときは、非常にうれしかったです。

所属：株式会社盛武組

(E-mail : nagano@moritakegumi.co.jp)

探求心を忘れない

まきの しんいち
牧野 真一
 (金属・鹿児島)



1. 生い立ち

幼少の頃に日豊本線沿いに自宅があった。想像できると思われるが力強く走る蒸気機関車を間近で見た線路沿いに近寄っていたのだ。他界した母親から叩かれるほど怒られたものでした。「なぜあぶない事をするの」と尋ねられても子供心に刺激を受けた感動は親には理解してもらえないのです。軌道幅1067mmを駆け抜ける重量感と1000馬力を超えるパワー、25mレールの継ぎ目から発生する強烈な車輪の音、動輪を駆動するクランクシステムの動き、石炭が燃える匂い等身震いする感動があった。その根底には「なぜ？」の探求心から「近づいて視たい」との自然な行動力であった。そのほのかな探求心を素直に親に言い出せず、ただ怒られた記憶が抜けない。SLが力強く走るさまに何の疑問も感じない人間には「ただ危険な行為をして」と感じてしまうのであろう。私の探求心を埋める行動力はこの頃から止まらなかった。

幼稚園に入る頃には、住宅開発で団地の造成が多い時期で建設機械を目にする機会が多かった。大きな石や土砂を押すブルドーザやスクレッパー等目や心を奪われていた。油圧の仕組みやディーゼルエンジンの仕組みを知る能力もなく、裏山に登っては施工風景を見る毎日でした。それでも心に焼き付いた感動は加速していった。

小学生になると、父親の車に乗るたびに父親が点火時期をいじっていた。ディストリビュータのポイントアームの調整に余念がなかった。高速走行に合わせ点火時期を早めていたのであった。「あれ何？」という質問ばかりしていたことは忘れない。高学年になるとオーディオブーム全盛期でラジオやスピーカーに疑問を持ちキット製作に明け暮れる日々でした。

中学に入ると理科・数学・技術の時間が楽しく、技術の担任がオートバイで通勤されており教室の外で先生とメカ談議をする事が楽しくあった。部活動は、今でも続けているテニスを愛好していました。

ピヨン・ボルグが世界を制している姿と言うより他の選手よりボールが落ちるドライブボールに感動したのかもしれませんが。スポーツも理論から入ったようでした。

社会人になり、工業の世界に身を委ねる子供たちに探求心を追及してもらいたい願望で教職に就いたが、目的意識を持つ者は1割もない現状に失望した時期があった。この時期の楽しみは、子供たちが登校しない夏休みであった。探求心は消えるどころか加速している自分がいた。自動車整備会社、建機会社、JR、NASUDA電力会社等に研修に出向き、知らないことを学ぶ時間は自分の糧となり至福の時間でした。

2. 現在の仕事

十数年経験した後に、縁あって鋼構造物の建設業で働かせていただきました。技術職(設計)で毎日を過ごしている時、「技術士を受けなさい」と当時の鬼塚社長からの勧めがあり受験に至った経緯がある。鋼構造物建設業であり「建設分野」で受験を考える者が多い中、「機械」「金属」での受験を根底に一次試験を突破。二次試験前に、福岡で活躍される安西敏雄先生(金属)にアドバイスを受けて無事合格をいただきました。その後、建設業を通じ国土交通省の施工分野で賞をいただくまでに成長させていただきました。そのような経験と知識をもとに、発注者側の手助けができる機会を現在の社長である中島順一社長にいただけることになりました。

3. 技術士との出会いからこれからも

機械系の仕事は、図面一枚描くにしても製作する方法や段取りが分からなければ一人前の図面は描けません。技能士並みの考えがなければ技術士としては一人前ではないと常日頃から考えています。今は自分にとって異分野の世界を知ることが多く毎日が勉強です。日本技術士会に入りCPDという勉強の機会を得る事ができとても幸せです。なぜもっと若い時分に取得しなかったのかを後悔しています。鹿児島県支部に所属しながら金属部会員でもあります、専門の先生方の能力の高さと実績には圧倒され声も出ません。それでも一人の企業内技術士として社会の微力な功績の為に「なぜ?」「他人を見て感動」「何事にも深い探求心」を抱きながら毎日を有意義に過ごしたいと思います。

所属：株式会社コバルト技建
 (E-mail: makino-s@cobaruto.jp)

老人技術士の ひとりごと

会計幹事 まつ お たかのり
松尾 孝則
(上下水道、総合技術監理・福岡)



1. 初めに

私は、F市役所に入所後、多くの業務と実践を経験させていただき、おかげさまで平成13年、14年に技術士を取得させていただきました。

では、市役所時代にどのような業務に携わったのか簡単に紹介させていただきます。

まず、市水道局では、M浄水場の配水池の建設、送水管や配水管等の事業に携わりました。

次に、市下水道局では、以下の各業務に携わりました。

- ①汚水計画と雨水計画の全体計画の見直し、窒素・リン同時除去高度処理の開発導入、消化ガスの有効活用、污泥燃料化の開発研究等。
 - ②雨水出水である内水対策として、雨水整備レインボープランの、S公園内の野球場や公園地下を活用した雨水調整池建設幹線管渠（シールド工事）等。
 - ③F市への雨水貯留浸透施設導入に伴う雨水流出抑制の設計指針の作成等です。
- 以上が主な業務でございますが、・特に印象に残っている出来事、・最近思うこと、・若い技術士に伝えたいこと、・日本技術士会へのお願い、について記載させていただきます。

2. 印象に残っている出来事

最初に、私がF市役所に入所したところ諸先輩方々からの現場指導等により多くの技術を修得させていただきました。

その際に感じたことですが、諸先輩方々のご指導内容の一部においてエビデンスはどうなっているのかな～と思った記憶があります。

現在のようにネット上に、技術の基礎知識や技術論文、凡例等が溢れているような時代ではありませんでした。

このため、公共事業に携わる際に関連する下水道法、河川法、道路法、都市計画法等の条文や逐条解説、各基準書等の書籍を数多く読みあさった記憶があります。

次に、2年連続でF県の同じ二級河川より越水し、河川沿いの地域で浸水被害が発生した際の対応についてです。

水災害発災後、同地域の市民や議会等より早期の河川改修等による浸水対策を求められました。

このため、F市より二級河川の管理者であるF県へ早期の河川改修を要望すると共に、F市においては、雨水流出抑制施設の早期導入に向け、担当者として各局の総務課と事前協議を経て、F市全局の合同会議を開催し、全市横断的な取組として各局から理解と協力を得られたことが印象に残っています。

3. 最近思うこと

我が国の陸域は約38万km²ですが、地球上における地震発生の約2割、火山噴火の約1割を占めているとともに、災害リスクの高い約35%の国土に人口の約70%以上が居住するなど災害に対して脆弱な国土構造となっています。

また、近年気候変動の影響による水災害等が激化・頻発化し甚大な被害が各地域で発生しています。

今年も1月1日に能登半島地震が発生し、甚大な被害と多くの方々が亡くなられています。

このため、国の「防災・減災が主流になる社会の実現」を促進していく必要があると痛切に感じると共に、他部門の技術士の方と連携・協働して、何か一助でも思っているところです。

4. 若い技術士に伝えたいこと

既に、皆様はご承知と思いますが、国のSociety5.0の実現社会を目指すとともに、国の環境行動計画に基づくグリーン社会の実現を目指していく必要があります。

そこで、AI、IoT等を活用した脱炭素社会、気候変動対応社会、自然共生社会、循環型社会の実現に向け、若い技術士の方の活躍を願っています。

5. 日本技術士会へのお願い

現在、日本技術士会主催の研修会で多くの技術士の技術研鑽に貢献されており、その立場は益々重要であると思慮します。

今後は、技術士を建築士等と同等の知名度とするため更なる対策が必要であると考えます。

その知名度が低い要因の一つは、建築士等は国民に直接的に見える貢献が多い一方、技術士はそれ以上に貢献していると思慮するものの、その多くは国土形成による間接的な貢献となっていると考えます。

このため、技術士が「日本の国土形成」に貢献している具体的な内容を国民に分かりやすくPRすることにより技術士の知名度が上がり、ひいては会員数も増加するのではと思います。

所属：大和コンサル株式会社
(E-mail: matuo@daiwaconsul.co.jp)

若手技術士の声

若手技術士として 何事も前向きに

ぬくみず けいた
温水 慧太
(建設・宮崎)



1. はじめに

私は、宮崎県の土木行政の職員として、県内各地を3年程度の間隔で転勤しながら、河川、ダム、道路、港湾など、様々な分野の防災対策、インフラ施設の整備や維持管理を担当しています。

今回は、私が技術士試験の受験に至るまでの動機や体験談、若手技術士としてのこれからを記載させていただき、皆様が技術士試験を受験するきっかけとなれば幸いです。

2. 受験の動機・体験談

「技術士は合格率が低く、なかなか合格できないよ」

私が働き始めてからこの言葉を多くの方から聞いてきました。確かに、毎年合格率が10%程度、筆記試験は、様々なテーマから問題が出題されるなかで、合計9枚(5,400文字)の論文を記述し、口頭試験は、独特の緊張感のなか、質疑応答形式で自身の経験について、技術士として資質を的確かつ冷静に説明する必要があり、簡単な試験ではありません。

ただ、実際に試験を受験しない限り、試験の難しさもわかりません。これから先、同僚や後輩から技術士試験について尋ねられた時に、自身の経験に基づき、適切にアドバイスできるようになりたいと考え、技術士試験を受験することにしました。

私の場合、一次試験からのチャレンジでした。試験対策は、とにかく過去問を解くことに集中し、無事合格することができました。二次試験は、筆記試験が7月の出水期であり、防災対応も多くなる時期のため、すぐに受験はできませんでしたが、受験を検討し始めた際に、技術士会宮崎県支部様が開催している「技術士制度説明会」の案内があり、参加してみることにしました。説明会では、実際に合格した方の体験談を聞く機会があり、まずは、受験申込をしてから考えることにしました。また、それまで全く試験対策をしていなかったため、1回目は、予

行練習と考え、自分の課題を分析し、2回目ですっきりと試験対策を行い、筆記と口頭を合格する目標を設定しました。結果は、1回目は、筆記試験であると2点足りずに不合格でしたが、内容的には、時間も足りず疲労感たっぷりの「完敗」と言える試験でした。2回目は、1回目の反省を踏まえ、ちょっとしたミスもありましたが、合格することができました。口頭試験は、自身の経歴に関する質問や技術者倫理の質問が多く、何とか回答し、合格することができました。無事に合格できたのは、受験に際し、防災対応の協力や口頭試験対策のご対応いただいた方々のおかげであり、この場を借りて御礼申し上げます。

3. 若手技術士としてのこれから

土木業界では官民間問わず担い手不足が深刻化するなかで、事前防災、災害対応、インフラ整備、入札制度改革、生産性の向上など、業界が抱える課題は増え続けています。

宮崎県においては、令和4年台風第14号による災害の発生や南海トラフ巨大地震発生の切迫性が指摘されるなど、多くの災害リスクも抱えています。

また、新型コロナを契機に急速に進んだテレワークなど、DXを活用した働き方改革が当たり前となるなかで、効率化と成果が同時に求められ、コスト・タイパの考え方が主流化する難しい時代です。

そうした中で「経験工学と言われる土木」に携わる者として、いかに地域社会に貢献できるかと考えた時、現状の批判や後ろ向きな姿勢ではなく、物事の本質を捉え、前向きな姿勢で何事もワクワク感を持って取り組み、業界に関わる全ての方々の多様な意見を尊重し、適切な解決策を提案できる技術士になれるよう努力していきたいと思います。

4. さいごに

技術士試験は、資格を取得することが目標となりますが、試験対策やそのなかで習得する知識、考え方、倫理感がより技術者として成長できました。

結果も重要ですが、「百聞百見は一験に如かず」とおり、受験した経験が貴重なものとなっている気がします。

地方における 公共施設マネジメント

よしなが こうじ
吉永 幸治

(建設、総合技術監理・佐賀)



1. はじめに

私が、平成7年度に民間から地方自治体に転職して28年が経とうとしている。入庁して道路、土地改良、森林整備、都市計画、水道と土木技術職員として、一通りの部署を経験した後、令和2年度にファシリティマネジメントの担当室長として、始めて政策系の部署に配属され、現在は、市政における重点政策を推進するプロジェクト推進課に所属している。

2. ファシリティマネジメント

現在も業務には、ファシリティマネジメントがあり、これは、「企業・団体等が組織活動のために施設とその環境を総合的に企画、管理、活用する経営活動（FM:ISO定義）」と言われ、高度経済成長期に整備された多くの公共施設の老朽化が全国的な課題となる中、厳しい地方財政、人口減少、高齢社会などを背景に、従来の施設管理である維持・保全だけでなく「より良いあり方」を追求するなど総合的な経営活動として、公共施設の適正管理、公的資産の有効活用など全国的に取り組まれている。

令和2年度末までに、公共施設の個別施設計画（長寿命化計画）を作成する必要に迫られたことから、これまで公園、道路・橋梁、水道施設の長寿命化に携わってきた経験を買われたのかは定かではないが、建築は専門ではなく、外部委託の予算も無いという状況の中、作成リミットまで残すところあと1年というタイミングでお鉢が回ってきた。

ほぼ手付かずという状況で、まず市有財産でも多くを占める公共建築物を対象に、総量縮減を前提とした施設の統廃合の必要性を市域全体の共通した課題として示すことで、様々なご意見もいただきながら、施設の統廃合を軸とした複合化・集約化の推進、既存施設の利活用、施設の長寿命化という方針を示した今後40年間の計画を作成することができた。

その計画に基づく具体的な公共施設マネジメントとして、PPP/PFI（公民連携）の導入、施設情報共有プラットフォームの構築、施設の脱炭素化、定期点検の制度化とドローン等新たな技術の導入、跡地・低未利用地対策などに取り組んでいる。

3. PFI事業完了後の新たな取り組み

その取り組みの中で、施設を保全する難しさを感じた事例を紹介する。本市が唯一15年前にPFIで取組んだ給食センターの契約が満了を迎え、その後の施設の大規模改修を含む維持管理において新たな事業スキームを構築する必要があった。

公共建築物の建物は鉄筋コンクリートなどの構造物という点では土木構造物とさほど長寿命化の考えは変わらないものの、その建物の中では日常的に人が仕事や生活をしており、水道や空調等の様々な設備があって、設備は建物より耐用年数が短く更新サイクルが短いのが一般的である。

そのようなことから、給食センターは公共施設の中でも多くの設備があり、厨房設備などが正常に稼働しなければ給食の提供ができず、その厨房設備を中心とした大規模改修においては、給食を止めることなく提供すること、その費用の確保・平準化が大きな課題であった。

そこで、民間資金やノウハウを活用する公民連携の導入を視野に、サウンディング型市場調査なども活用しながら、結果的にはPFIに準じた事業契約方式という事業スキームを構築することができた。

現在、大規模改修を含む維持管理業務を新たな契約とする給食の提供を止めない改修事業として取組まれている。

4. 新しいことは厳しい

この数年は、土木に限らず、建築・設備にも携わる機会が増え、新たに勉強することも多い中、高等教育機関の誘致や駅周辺活性化、施設の脱炭素化、公園再生、水資源開発など様々なプロジェクトに携わることができるのも技術という根幹と経験があってこそだと感じている。ただ、その反面、そこそこ、いい年齢でもあり、体力の衰えは否めず、測量と図面作成では老眼との闘いである。管理職であってプレイヤーでもあり、職場の技術継承と技術職員確保の必要性を痛感しているところでもある。

また、新たな取り組みは、自分自身も手探りで不安であるだけでなく、褒められることもなく、否定、批判、反対のための反対と気が滅入ることも多く、いつまで役所にいるかもわからないが、自信を持ち、希望を持ち、信頼される技術者になるという初心を忘れず、そのためにもまず技術者としてやれることを精一杯やっていきたいと思っている。

所属：伊万里市総合政策部プロジェクト推進課
(E-mail: yoshinaga-kouji@city.imari.lg.jp)

私のチャレンジ

今年のチャレンジ (自費出版と出前講座)

倫理委員会委員 いさみ ひでただ
勇 秀忠
(建設・熊本)



1. はじめに

令和6年度がスタートした。九州本部熊本県支部広報委員の担当に新たに沼地氏が就任された。私自身も今後も県支部の広報委員としての任があることからサポートはできる範囲で応援していきたいと思っている。

今年の私自身の重要で大切な行事（チャレンジ）を2点紹介したい。一つ目は、熊本日日新聞「読者ひろば」欄への投稿集を12月に自費出版すること。二つ目は、玉名工業高校土木課への出前講座をしっかりと対応することである。

2. 自費出版と出前講座

過去数回本誌に熊日新聞読者ひろばに投稿した20年分の投稿集を自費出版したことを書かせていただいた。投稿しようと思った動機は当時、技術士資格（当時、科学技術庁執行）にチャレンジしていたことだ。県民の多くが見るだろう地元の熊日新聞「読者ひろば」へ採用されるのであれば、まあ～文章としての基礎は問題ないだろうとの自らの思いが発端であった。

36歳～56歳までの投稿をまとめた120編をその年の12月出版した。熊日への投稿はいまも継続中であり、私のライフワークでもある。今年66歳となったのでこれまでの10年分を本年12月までには第2弾として出版することを決意した。再度のチャレンジである。正直、出版会社との打合せなど、元原稿はあるものの結構大変である。当然それなりの経費出費も覚悟しなければならない。予告として、少しだけタイトルを示せば、「多くの県民に技術士を周知」、「亡国ではなく真心の国家を」、「県民総幸福量今以上にして」など約50編である。前回は20年で120編からすると10年分の投稿数（採用率）は少々少ないが自費出版への思いが強い。投稿内容の出来不出来が影響しているのか、この10年間は掲載率（採用率）がダウンしている。それもある意味、受け入れて今後の継続投稿に努めたいと思う。12月まで残り数が月もあるので今後の投稿にも注力したいと考えている。

次に、熊本県コンクリート診断士会の行事としての出前講座開催である。すでに昨年、玉名工業高校土木課主任の先生との協議や内容についてはほぼ終わっている段階である。

少し、具体的な内容を書くと橋梁等における座学学習（橋梁点検の実務（基礎編））から現地で高所作業者を使って、ひび割れ幅などクラックスケールを使い具体的なひび割れ調査やRCレーダー使ったコンクリート躯体（構造体）の内部鉄筋の配置（配筋）状態やコンクリート表面からの鉄筋位置までのかぶりの測定及び非破壊試験装置を実際使用し、衝撃弾性波（伝搬時間差）を応用したコンクリート強度推定なども盛り込んでいきたいと考えている。

出前講座開催の真の目的は、熊本県内の土木建設系（農業土木・建築科）の工業高等学校は測量専門学校を加えれば（公立・私立）9校にも及ぶもののその後の進路において、土木離れも聞き及んでいる。子供たちへ土木への魅力を伝えると同時に熊本県民に対して、県内の工業高等学校の取り組みが県民に周知でき、地元建設関連業者への進路選択の一助になればとの思いもある。

人口減少による生産性向上は待ったなしの状況を考えれば、産学官連携強化は更に必要と考えている。地方（地元）の活力には若い人材の定住等によって地域が元気になることから、地域へ目線を向いてもらうことが大切だと思える。失礼ながら少しでも子供たちが県内への就職への道を探り、その受け皿作りとその人材育成も必要だろう。今後の産学官連携との仕組みづくりを考えていきたい。現段階ではまだ不透明だがこの先、良い報告ができるように取り組んで行きたい。

3. おわりに

最後に、投稿集の中に本誌の私の提言3編（第87号・第120号・第137号）と日本コンクリート工学会に投稿した2編（2020年：年次大会論文、2022年：コンクリート工学7月号論文）も加えたい。

また、出前講座に関しては、先に述べた9校の工業系高校があることから、熊本県高校教育課産業指導班と意見交換を重ねて何とか熊本県コンクリート診断士会と連携した出前講座の仕組みづくりに注力していきたいと考えている。能登地震犠牲者の方々のご冥福を祈り、生きていることに感謝したい。

所属：株式会社興和測量設計
(E-mail: isami-h@kowa-kk.co.jp)

修習技術者の声

技術士取得を 目指して

しろうどの しょうご
四郎園 祥吾
(建設(修習)・鹿児島)



私は、地元鹿児島県の建設コンサルタントに勤務し、主に橋梁の新設設計・維持管理業務に携わっています。近年は維持管理業務の補修設計や定期点検業務の割合が増え、新設橋の設計は、高度経済成長期をピークに減少しています。そのような中でも毎年、新設橋の設計にも関わっているのは恵まれていると感じています。

日々の業務では、先輩社員や上司の方々による丁寧なご指導により、ようやく定型業務をスムーズに遂行できるようになりました。しかし、全く同じ橋梁は一つもなく、それぞれの橋梁毎に条件や環境が異なり、幅広い知識や技術力、経験の必要性を日々痛感しています。また、平成29年の道路橋示方書の改訂では、設計手法の変更があり理解するのに苦労しました。細かな箇所は、未だに示方書と睨めっこしながら一つ一つ理解し、時には上司に指導を仰ぎ業務に取り組んでいます。

そのような環境のなか、昨年度30歳を迎え、経験年数も7年を超えたことにより、挑戦できる資格も増えてきました。昨年度はRCCMと技術士2次試験に挑戦しました。RCCMは合格できましたが、2次試験は口頭試験で不合格と大変悔しい結果に終わりました。今年こそはと勉強に励みましたが、子供が産まれ家庭や子育てとの両立がなかなか難しく、思うように勉強時間が取れず、2回目は筆記試験で不合格という結果でした。これからも、不足する技術力や知識を少しでも高めるため資格取得には、前向きに挑戦していきたいと思います。

技術士に求められるコンピテンシーとして、「専門的学識」「問題解決」「マネジメント」「評価」「コミュニケーション」「リーダーシップ」「技術者倫理」「継続研さん」があります。どれだけ個々の能力が優れていても、どれか一つでもかけると技術士にはなりません。日々の業務や子育てと試験対策のバランスが難しいですが隙間時間を上手に活用し、国土交通白書を読み、政策への理解を深めたいと思います。また、日々の業務で技術士に求められるコンピテンシーを意識して、技術士取得に向けて一層邁進したいと思います。

所属：大福コンサルタント株式会社
(E-mail: dcshiro@po.minc.ne.jp)

地域の話

北九州

成人式で想うこと

ほりうち たかし
堀内 啓史
(機械・北九州)



今年も各地で成人式が行われた。

ひと昔前までは、問題行動を起こす一部の輩についての報道が一種の風物詩のようになされていたが、コロナ明け以降、そうしたニュースは全国的に少なくなった印象だ。

さて、ここ北九州の成人式と言えば、ド派手衣装で全国に知れ渡っている。色とりどりの羽織はかまに、巨大リーゼント、花魁風の和装なども。どちらかと言えば、悪い印象で見られていたと思うが、昨年、米国で評価され、ファッションショーに出てからは、周囲の目も変わってきた。武内市長も、「市が世界的に発信できる有益な文化」と発信されている。海外から認められたことは素晴らしいが、ヤンチャなファッションの延長であり、個人的には仮に周囲に迷惑を掛けなくとも、有益とは如何なものかと感

じるが。

ただ、一方で、この日に掛ける思い、満足そうな笑顔を見ていると、楽しそうで羨ましいなあ、とも思ってしまう。表現の仕方はそれぞれあるものの、この日を境に良識を持った大人の一人になるぞ、というけじめ・決意が伺える。自分はどうかだろうか。二十歳を迎えた時の心情について正確には覚えていないが、責任ある年齢になったことによる不安、もう未成年には戻れない寂しさが先行していたような気がする。

また、成人式は意図して出席しなかった。出席したとしても、市長の祝辞を初め、だいたいどんな内容かは想像出来るだろうし、ああ、出席して良かった、とはならなかったと思う。成人式当日は、夕方、成人式に参加した仲間、受験浪人中の仲間と合流し、食事会を行った。高校卒業後に以前の仲間と会うのは楽しかったが、その後なんとなく、成人式に出なかったことが心残りになり、やはり、こうした人生の節目の行事は行くべきだったんだと、毎年1月になると、未だに思ってしまう。同じ思いをしないようにと、子供達には伝えていたが、今二十歳の我が娘は、成人式の出席を見送った。

TOTO株式会社
(E-mail: p2793ee@gmail.com)

大 分

中九州横断道路 の事業化 間近

えとう かおる
衛藤 郁

(上下水道、建設、総合技術監理・大分)



1. はじめに

令和5年12月4日、国土交通省九州地方整備局が設置する社会資本整備審議会 道路分科会 九州地方小委員会において中九州横断道路（大分～犬飼）のルートが審議され、未事業化区間として残る大分宮河内ⅠC（インターチェンジ）～犬飼ⅠC間のルートが決定（山側ルート案）され、大分県側のルートが全て決まりました。

2. 中九州横断道路とは

中九州横断道路は、大分市と熊本市を東西に結ぶ延長約120kmの地域高規格道路で、現在は大分県側の犬飼ⅠC～竹田ⅠC間や熊本県側の北側復旧道路（阿蘇市～大津町）が開通しています。また、竹田阿蘇道路（約22.5km）、滝室坂道路（約6.3km）、大津熊本道路[合志～熊本（約9.1km）／大津西～合志（約4.7km）]が事業中であり、残る区間も事業化に向けた検討が鋭意進められています。

3. 大分宮河内ⅠC～犬飼ⅠC間のルート

大分～犬飼間においては、産業、防災、暮らし、医療、観光の5つの政策目標が設定され、基本コンセプト『災害時に機能する信頼性の高いネットワークを構築するとともに、速達性・定時性・安全性・走行性の向上を図り、産業活動や生活利便性の向上、救急医療活動、観光振興の支援を目指す』として、これまでに様々な検討が行われてきました。

決定した「山側ルート」は、山間部に沿って集落・市街地・浸水想定区域を可能な限り回避する別線整備案で、延長約18km、設計速度80km／h、自動車専用道路タイプの道路として検討が進められ、整備費は概算で約2200億円から2400億円が見込まれています。

また、地域の意見等を踏まえて、主要な幹線道路とアクセスしやすい大分市吉野地区（県道25号白杵上戸次線）付近に中間ⅠCを設置する方針です。

4. ミッシングリンクの解消

防災・減災、国土強靱化に向けた道路の5か年対策プログラム（本省策定）に基づき、九州地方整備局では、近年、激甚化・頻発化する災害から速やか

に復旧・復興するために、道路ネットワークの機能強化が必要不可欠として、発災後概ね1日以内に緊急車両の通行を確保し、概ね1週間以内に一般車両の通行を確保することを目標に掲げています。

具体には、災害に強い国土幹線道路ネットワークの機能を確保するため、国土強靱化に資する高規格道路のミッシングリンクの解消及び暫定2車線区間の4車線化、高規格道路と代替機能を発揮する直轄国道とのダブルネットワークの強化等を推進としています。

ミッシングリンクの解消により、主要都市間の物流コストの軽減や周辺部の企業立地の増加、観光地への観光客数の増大等が促進され、生産額の増加や雇用誘発など様々な経済波及効果が見込まれます。

5. 住民や地域の期待

中間ⅠCは、平常時は周辺の市街地・集落、産業・物流拠点に近く、大分中心部や熊本方面へのアクセス性向上が図れ、三次医療施設（アルメイダ病院）への到達時間が30分以上の地域に近接し、救急医療活動の支援が期待される位置とされています。また、災害時にあっては、周辺の市街地・集落や国道10号へのアクセス時に、浸水による被災リスクを回避できる位置が望ましいとされています。

さらに、中九州横断道路の沿道に位置する熊本県菊陽町では、半導体受託製造における世界最大手の台湾積体電路製造（TSMC）が工場を建設するなど注目が集まっており、関東方面に貨物専用フェリーが就航する大分港がある大分市と中九州横断道路で結ばれることにより、物流の効率化や産業の活性化が九州各地に波及するものと期待が高まります。

6. 安全・安心、そして将来のために

中九州横断道路の大分市への接続は、災害時にあっては信頼性のある道路として地域の安全・安心に大きく貢献するものです。また、大分県と熊本県の交流を促進するとともに、沿道地域における産業の発展、地域活性化が期待される道路です。さらに、九州縦貫自動車道および東九州自動車道と連絡され、循環型ネットワークが形成されることにより地域間の交流が活性化され、九州全体としての強靱化や経済発展に寄与するものと確信しています。

九州地方整備局は今後、環境影響評価などを行い新規事業化する方針であり、地元大分県では一日も早い事業化に大きな期待が集まっています。

所属：九州建設コンサルタント株式会社
(E-mail: kaoru.eto@qcon.co.jp)

「緑の奔流」

前田用水路

おおさき むつ お
大崎 睦男
(農業・宮崎)



農商務次官を退職した前田正名が、坂元源兵衛から開田を引継ぎ、理想的な農村建設を目指す。また、農業指導を依頼された、秋田の石川理紀之助が村の生活習慣を一変させる。地元のミュージカルや秋田のテレビ局でも取上げられた、珍しい土木遺産。

時期：明治32年～明治34年

場所：都城西の西、庄内から谷頭までの火山灰台地
開田面積580ha、用水路延長8.3kmトンネル13カ所、志和池村代替用水路0.8km。水源：観光地
関之尾滝の上流左岸 事業費：5万8千円（当初）



関之尾の上流、取水開始（現在）

開田事業は、当初地元の坂元源兵衛らが明治22年に始めた。最初のトンネル250mの半分が溶岩で、「自分の意志が固いか、岩が固いか」と励まし3年をかけ岩盤を穿ち抜いたが、地層の境から大量の土砂が流れ込むなど苦難の工事に7年を費やし資金難で断念。引継いだ前田正名は、山田村谷頭に「一步園日向疎水部」を置き、東京から飯塚驒太郎、稲田秀美らを派遣。鉄道技術を習得した稲田らは、トンネルや掛樋を多く取り入れた。坂元は、この地に適さないと反対したが、前田から「昔から病人は医者、工事は技師、素人は口出しするな」と言われ現場を退く。同年11月工事開始、翌年4月17日残りのトンネルが貫通し、12月には用水路が完成した。前田は、年の暮れ通水を試みた。民衆と待ちわびていると、水が現れ、水量を増し流れに変わった。彼は、「これは正名の血じゃ、さあ皆さん飲んでくれ」と叫び、皆は歓声をあげ、台地に水が来たことを喜んだ。

ここまでは地元ミュージカル「緑の奔流」で演じられた。下流代替用水の問題がある。志和池村は、関之尾滝下流で、毎年柴堰を造り300haの用水を取っていた。坂元は代りの用水を、別の川から開水路で引くと約束していたが、村はトンネルに変更されたのを知り猛反対した。技師らは、開水路では高さ24mの台地を800m掘割るため、さらに3年と9万円かかるという。事態を重視した県の仲介で、トンネル案に決まった。霧島山から沢山の松材を調達し掘削開始。50m位掘り進んだ所で、大量の湧水に押し流され中断した。怒った前田は、技師たちを解雇し一步園日向疎水部も閉鎖してしまった。坂元は、自分なら掘割式で5千円と5ヵ月で完成して見せるという。前田は、この提案に望み賭けた。坂元は、掘割の下を水路と1.8mの通路を設け、法勾配35度の断面として早速工事に取り掛かった。連日100人以上、多い日には580人が作業に当たった。掻き流されたシラスで、はるか宮崎の河口まで白く濁ったという。6月27日、代替用水路が完成した。機械力のない時代、坂元源兵衛の土木技術には驚愕する。

前田は、開田に合わせ農業指導を石川理紀之助に頼んだ。石川は、同志7名と4月1日に秋田を発ち、4月20日到着。始めは、東北弁と薩摩弁で会話ができなかった。また大半が桜島噴火の移住者で読み書きできない。石川は風土の異なる地での農業指導をやめ、規則正しい生活習慣と教育を行った。石川は、午前3時になると板木を打ち、住人を起こして回った。農家には草鞋、竹細工などの副業を奨励し、作った品を一行が現金に換え貯蓄させた。後に連日100名以上が夜学に通い、大半が通帳を持つようになり生活習慣が一変した。ある時、前田は、「天に勝つこと出来るか」と、石川に書簡を送った。石川は「工事が成功しないのは力がないからだ。力と、金と、誠と、人に信用があれば出来ないことはない。天地に勝つなど関係ないことだ。また、災害現場に行けば、対策を問われ、それに答えと地元熟練者の妨げになるから行かないのだ」と同志らに話した。農業指導の経緯は、秋田のテレビがドラマ化した。石川の出身地と山田町は、現在も交流がある。都城市山田町中霧島JR吉都線谷頭駅近くに、前田記念碑（東郷平八郎 筆）、石川理紀之助の胸像、関之尾公園に坂元源兵衛の陶像がある。

所属：株式会社城西エンジニアリング
(E-mail : jyousai@eagle.ocn.ne.jp)

ミニ特集 『趣味・特技、社会貢献、心に残る言葉・出会いなど』

米寿記念コンペ

いながき ひろみち
稲垣 浩通
(建設・福岡)



去る2024年2月6日ゴルフ練習場で知り合った、Y先生の米寿記念コンペを、私が幹事として開催した。前日までの菜種梅雨?の長雨も止み、2月にしては暖かな中で開催出来た。9人の老若男女が参加し、ニアピン・ドラコン等和気あいあいのうちに競い合った。私が幹事になる経緯は、2022年3月いっぱい、65歳定年退職し、毎日が日曜日。家でござろしている、邪魔と言われ、下手糞だったゴルフの練習に通い始めた。練習場は私よりも年上の方々に結構いっぱいの盛況ぶり。サービスタムに行くと、年金生活者でも毎日通える『500円で70球、席料無し』とリーズナブルな設定。ショットの練習やコンペのコースを想定しての練習等、休憩を挟んで飽きずに2～3時間、費やすことが出来る。毎日通っていると、顔馴染みの常連さん方と友達になり、あれやこれやと話したりアドバイスを貰う。その中

に身長155cmほどの小柄なおじいちゃんが毎日、水筒に詰めたコーヒーを飲みながら、黙々と練習している。聞くとところによると、60歳でゴルフを始め、エージシュート数回。高校時代、野球でプロを目指していたが、身長が小さく断念。社会人野球で40歳まで活躍。野球引退後、スキーやテニスのインストラクター資格を取り、今でもテニスのコーチを週に2～3回しているとの事。コーヒーのお相伴に預かり、もうすぐ米寿との話を聞く。話の流れで『それなら米寿記念コンペしましょう』と言ってしまい、今回のコンペの開催に繋がった。何度か機会があって、一緒にコースに出ると、ドライバー飛距離は150ヤードほどと短い、とにかくまっすぐ飛ぶ。セカンド・寄せ・パットの感覚はズバ抜け、短いコースではパー、バーディを取るのを見て、ゴルフ戦略の価値観が大きく変わった。今回のコンペ、Y先生エージシュートグロス88ネット74.8で見事優勝、私はグロス99ネット75で準優勝でした。これからもY先生のように、88歳まで自己継続研鑽に努め、技術士会活動もゴルフも、日々楽しんで行きたいものだ。ちなみに元青年技術士関連有志でコンペを時々開催しているので、参加希望者は連絡ください。本部支部対抗ゴルフコンペも将来計画したいですね。

(E-mail : hiromichi.inagaki65@gmail.com)

夢なき者に成功なし

ぜ ぜ まさふみ
瀬々 昌文
(金属、博士(工学)・北九州)



『夢なき者に理想なし、理想なき者に計画なし、計画なき者に実行なし、実行なき者に成功なし。故に夢なき者に成功なし。』、幕末の思想家・教育家である吉田松陰の有名な言葉なので、ご存じの方も多いかと思いますが。夢(具体化した目標)を持ち計画を立て実行しないと成功はないということで、似たような名言は多くあります。共通しているのは、まず夢(目標)を持てということです。企業で鉄の製鋼技術に関する研究開発に従事していたころは、研究費を獲得する目的で、毎年、目標と計画を書いたものです。退職後は工業大学で学生の教育・指導に従事することになりましたが、学生への訓示として教授室に掲示し自分にも言い聞かせました。さて、学生にとって夢となると、卒業・就職といった現実的な目標に留まり、なかなか未来に続く夢を描ける学生は多くなかったようです。

そこで、学生時代に挑戦してほしい夢の一つとして、技術士一次試験・機械の受験を薦めました。実は大学では技術士の認知度は低く、それまで合格した学生もいなかったもので、受験指導する側も工夫が必要でした。まず、技術士を知ってもらうことがスタートで、技術士制度から試験の内容・レベルの説明を実施。つぎに、社会での評価について、企業で技術士として活躍されている方の特別講義や資格手当を出されている企業等を授業で紹介しました。最後は、受験指導で、夏休み明けから専門・基礎・適性の過去問解説を週1～2回計画・実行しました。幸運にも最初の年に6名が合格してくれたことは大きかったです。自分たちでもできるレベルの試験だとわかると後に続く学生も増えたように思います。結果的に、8年間で39名(R2年度11名)の一次試験合格者を出すことができました。夢への挑戦を通して「成功体験」を味わったことは、社会に出た後も貴重な財産となると思います。また、初期の合格者は就職後4年を超える実務経験を積んでいるので、次のステップである二次試験に挑戦し技術士やさらなる夢を目指してほしいものです。

所属：ZEZE技術士事務所
(E-mail : zeze@jcom.home.ne.jp)

早朝ウォーキング

みね あきら
三根 明
(建設・佐賀)



5年ほど前から、朝早く近所を歩いている。

始めたきっかけは、腰痛が長引き思うように動けなかった時期に脚の筋力が低下してしまい、それまで習慣としていたジョギングが全くできなくなったからだ。体が思うように動かせず気持ちが落ちたが、もう一度走りたい、その一念から始めたウォーキング。体調をみて無理をしないように心がけ季節の移ろいを楽しむことが、継続できた秘訣だと思う。再びジョギングが出来る筋力をつけることを目標としている。

2年前に自宅から近い職場に変わったこともあり、それまで以上に早朝の時間を有意義に活用できるようになった。歩く時は、視線を上げて歩幅を広くし腕を大きく振りテンポよく体を動かすことを意識している。自宅周辺を6時くらいから歩き始め、最後は近所の公園で時間をかけてストレッチ。使った筋

肉を伸ばし、深呼吸をして早朝の空気を思い切り吸い込む。

体を動かした後の朝食は実にうまい。こうしてほぐれた体とすっきりした頭で出勤している。

今は昼休みも会社近くの多布施川河畔公園を歩いている。ここは桜の名所で、佐賀市民の憩いの場として親しまれている。木々のおかげで暑い時期は木陰で涼しい、寒い時期は木々を抜けてくる日射しが暖かい。緑道の柔らかい地面を踏み締める感触が心地よく、好きな場所だ。

最近は腰痛に悩まされることも減り、動作も軽やかになってきた。ウォーキングを続けてきた成果が出てきたのではないかとと思っている。筋力もアップし、以前のようにジョギングができる日もそう遠くないと期待している。

今秋には国体から衣替えした国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会が佐賀で開催される。その会場となるSAGAサンライズパークのジョギングコースを走る自分を思い描いて、日々のウォーキングをこれからも続けていきたい。

みなさんも心身の健康づくりのために早朝ウォーキングをはじめてはいかがでしょうか。

所属：株式会社親和コンサルタント
(E-mail: mine@sinwa-consultant.jp)

磯釣り 自然に合わせる

なかむら こういちろう
中村 康一郎
(建設・長崎)



4年前の技術士取得後、職場のある福岡県から地元長崎県へのUターンをきっかけに、趣味である磯釣りを本格的に取り組み始めました。

自宅から車で1時間も走れば、様々な磯に行くことができますが、私のホームグラウンドは長崎市野母崎町樺島の渡船「寿丸」が渡す磯がホームグラウンドとなっています。

釣行を重ねていくと魚を釣るために必要なことは、自然（潮の流れ、魚の動き方及び風等）に合わせることに気づきます。

魚を多く釣るためには、潮の流れにマキエサと仕掛け（付けエサ）を同調させながら、魚がエサを捕食する棚まで流し込む必要がありますが、強風が吹くとウキやラインの抵抗となり、仕掛けの投入や流れを阻害し、魚の捕食棚まで仕掛けを上手く流せな

くなり、魚が釣れなくなります。

技術士的に考えますと問題は強風、課題は如何に強風の影響を受けさせずに潮の流れに仕掛けを乗せるかであり、刻々と変わる自然条件を分析し、自身の知識と経験から考えた対策をお気に入りの道具を使って実行し釣果を上げていく、このゲーム性に魅了され冬から春の期間は毎週のように磯に立っています。

私が主に狙う魚は「クロ」で、全国的には、「グレやメジナ」とも呼ばれています。



最近では、この魚を対象とした釣り大会に参加するようになり、凄腕の磯釣り師達の釣技に刺激を受けながら、九州大会や全国大会を目指し頑張っています。

このように趣味に興じることができるのは、家族の理解があるからこそと感謝しています。

所属：一般社団法人九州建設技術管理協会
(E-mail: nakamura-k@kyugikyo.or.jp)

放送大学大学院修 士科目受講から！

倫理委員会委員 いさみ ひでただ
勇 秀忠
(建設・熊本)



令和3年度から放送大学大学院の修士科目生として、「道德教育の理念と実践」、「成人の発達と学習」、「教育心理学特論」、「発達心理学特論」、「現代社会心理学特論」など人間発達科学プログラムや臨床心理プログラムを受講してきた。始めようとした動機は、九州本部倫理委員会に所属し、技術者倫理から生命倫理・公務員倫理・研究者倫理・工学倫理など様々な倫理研究から世に言う有名企業などの品質不正からデータ改ざんなどの事例研究発表に取り組んでいたからである。

倫理学は「どうあるべきか」という規範に関わり、心理学は「どうあるのか」という事実性に関わることであり、人間の心の動きを学ぶことで、その人間のイデオロギーなどと共に対人行動や組織行動などその人の人間観や「社会の中で生きる人間の心」など人間そのものの（生物・個体）への興味からである。

人間は他者から好かれない、嫌われたくないという動機を持っており、そのために、他者が受け入れている行動や判断に同調しやすい。すなわち、暗黙の規範を破ることへの気まずさから生まれる同調圧力が生じ、特に親しい仲間同志であったりした場合には、規範的影響はさらに強まり、人は社会的に排除されることを恐れるのである。

すなわち、人間は、何かを判断すべき時にはまず、「自分はいま」、そのことについてどのように感じているかを自分に問いかけ、その時に感じられる感情状態を判断対象への評価と認識する。そして、物事を自分に都合よく解釈する。他方、利他行動として、他者に援助の手を差し伸べる。自らの犠牲を払い、他者を助けるという返報性も見られることだ。

個人の行動は環境、特に社会的環境に強く影響を受けること、人間の行動は心理学（psychology）という個人や個人の心的過程に着目する点で今後も学びたいし、これからも興味ある科目があることから引き続き学びたいと考えている。最後に、アリストテレスの「人間は社会的動物である」で閉じることにする。

株式会社興和測量設計
(E-mail: isami-h@kowa-kk.co.jp)

崇城大学での 技術士制度説明会

たなか ひろふみ
田中 啓文
(農業・熊本)



崇城大学工学部建築学科（熊本県熊本市）にて技術士及び技術士制度に関する講演会を行っている。

毎年の開催で日本技術士会九州本部と熊本県支部の協同による普及活動について報告する。

(1) 技術士とJABEE制度

大森和範(技術士：機械部門)

JABEE制度の仕組みから、JABEEコースを選択して修了することで早くから社会で活躍できる可能性について国際的な観点も交えて説明された。

(2) 足の裏の米粒 知っていますか？

佐藤和也(技術士：応用理学部門)

平凡なサラリーマンと技術士の違いを経営者・発注者・同期の立場の違いから、解りやすく説明された。

自身の経験も踏まえ、技術士を若い年齢から取得することでの利点・効果についても説明された。

(3) 建設コンサルタント業と資格の重要性について 橋本智恵(技術士：建設部門)

建設コンサルタント業とは何かから、仕事の内容、資格が必要とされる理由について説明された。業界での待遇実例(お金)の話もされ、盛り上がった。

(4) キャリアデザイン

田中啓文(技術士：農業部門)

在学中と卒業後のキャリアを形成していく過程において必要とされるスキル、投資の本質や人生におけるリスク、キャリアはトランジションを乗り越える過程で形成されることを熱っぽく説明した。

(5) 建築系出身者が技術士を目指すには

松鶴さとみ(博士・技術士：衛生工学部門)

建築系教授の視点から、なぜ技術士が必要か、そこに至るまでの道のりについてJABEEと一次試験コースとの違いを実体験と共に説明された。

様々な部門の技術士と、他校で教鞭を取られている先生まで多彩な人材による講義は私にとっても刺激になった。学生からの積極的な質問や好評なアンケート回答内容には、講師陣も元気を頂いた。その後、皆で飲んだお酒の味は言うまでもない。

所属：株式会社ARIAKE
(E-mail: tanaka-h@ariake-s.co.jp)

ミニ特集 『趣味・特技、社会貢献、心に残る言葉・出会いなど』

民謡 (こころのふるさと)

うちやま ひろし
内山 弘
(建設・宮崎)



私は縁あって民謡を始めて10数年になります。

民謡は地域の伝統文化であり、年配の方々にとってふるさとを思い出す「こころのふるさと」の唄です。

そのため、私がボランティア活動等で民謡の唄を披露すると、お年寄りが若いころのふるさとを思い出され、涙をこぼされることもあります。そんな時、民謡の持つすばらしさを感じます。

しかし、民謡をはじめ伝統文化を取り巻く状況は近年の高齢化の進展で継承・伝承等が課題となっており、多くの人に民謡の良さを知っていただくため、今回、民謡に関するお話をさせていただきます。

まず、我が国の民謡を大別するとハンヤ系、伊勢音頭系、松坂系、馬子唄系に分類されています。それらが長い年月をかけて各地に伝えられ、時には、唄の形態も変化しながら全国に広まり、酒席でもてなす唄がお座敷唄に変わり、馬子唄が追分となり、

北海道に渡り江差追分などに発展して現在に至っています。

次に宮崎県内の唄の中で、全国大会が開催され、私も参加したことのある主な唄を紹介します。

「日向田植唄」：美郷町西郷田代に無形文化財で1000年の歴史を迎える「御田祭」(苗代の泥田の中で、牛の引き回し、裸馬の荒乗り、神輿担ぎによって代掻となる)があり、この「日向田植唄」も同様に地域に唄い継がれた伝統文化です。

「正調刈干切唄」:(神話のふるさと)として知られる高千穂町で古くから牛の飼いや葉とするための萱刈作業で唄われた労働唄です。

「稗搗節」：東臼杵郡椎葉村は源平合戦に敗れた平家の落武者が住み着いた所といわれる地域であり、ここに住む人々は稗を脱穀して食料としていましたが、この作業のときに生まれたのがひえつき唄です。

「シャンシャン馬道中唄」：日南海岸の洞窟に鎮座する鶴戸神宮は、新婚カップルが参拝するお宮として有名で、昔この地方では結婚するとこの神社への鶴戸さん詣での風習があり、美しく飾り、鈴をつけた馬に花嫁を乗せて家路についた情景を描写して生まれた唄です。

(E-mail : hc-uhiyama@outlook.jp)

こころに 響いたことば

きりの あきひろ
桐野 明彦
(建設・鹿児島)



「死ぬまでのあいだに少しでも美しい心にしよう」と努力することが人生である」

このことばは、2005年に出版された稲盛和夫氏と五木寛之氏の対談本として出版された「何のために生きるのか」という本の中で見つけた稲盛氏の言葉である。ご存知のように稲盛氏は京セラの名誉会長であり、鹿児島の偉大なる大先輩である。

私がこの本を読んだのは、17年ほど前の50歳になろうとしているころであったと思う。稲盛氏の本には「経営学」や「生き方」について書いた本もたくさんあり何冊かは購入して読んだりしたが、この本は自分で購入した本ではない。亡くなった父が生前読んでいた本である。多分次兄がネットで取り寄せて父にプレゼントしたものだと思う。実家の本棚にあった本をその題目と作者の名に引き寄せられて、借りていいかと言って読んだ本で、本は今も手元にある。この本の中でこのフレーズを読んだとき、「そ

うか、そうなのか」と納得したような気持ちになったのを記憶している。今は世の中もかわりつつあるがひと昔前は仕事、仕事で休日出勤をしなくてはならない日も多々あり、何のためにこんなに頑張っているんだろうと思う日もあったように思う。

稲盛氏は京セラを27歳のときに起業したが、60歳になったら仏門に入りたいと考えていたそうである。そして実際に会長職を退き、名誉会長となった65歳のとき、臨済宗妙心寺派の円福寺で得度し修行を行っている。稲盛氏によれば、「この世に何をしにきたのか」と問われたら、生まれてきたときより少しましな人間になる。すなわち、わずかなりとも美しく崇高な魂をもって死んでいくためだと答えます。と言っている。7年前に亡くなった妻のお母さんは筆が達者だったので元気な時にお願いしてこの言葉を書いてもらった。そしてダイソーで買った額にいれ、いつも目につく場所に飾っている。



所属：株式会社建設技術コンサルタンツ

(E-mail : kirino@cecon.co.jp)

中央・統括本部情勢

理事会

理事会報告

副会長・理事 たぬま かずお
田沼 和夫
(フェロー・建設、総合技術監理、CPD認定・福岡)



毎回、理事会の冒頭挨拶で会長が理事の技術士登録簿記載申請者数を確認します。理事が記載申請に率先して取り組んでいるかの確認です。

最新(2023年12月31日時点)の技術士CPD実績管理登録状況を報告いたします。

正会員2,391名、非会員780名、総計3,171名です。その内、CPD認定数は正会員789名、非会員459名、総計1,248名です。

新規記載申請者数は着実に増加しています。参加しない理由の第一は、「面倒くさい」です。確かに講演会や現地見学会に参加後、毎回、記載申請するのは、面倒くさいです。まとめて記載申請することも可能です。遡って過去の記載申請をすることも可能です。是非、新年度になりました、2024年度から記

載申請をはじめてください。

朗報があります。

100時間(過去2年分)の記載申請で250時間分(5年分)の記載申請が貰える特例期間が1年間延長されました。

2023年度末までの特例が2024年度末まで延長されました。直近の過去2年度間連続して推奨CPD時間を達成している実績が必要です。(毎年度、1時間の技術者倫理の受講実績は必要)

2022年度と2023年度の実績登録で5年分の実績がもらえます。超お得な情報です。

実績登録が面倒くさいと思っている会員は是非、お得な2024年度から実績登録を開始してください。

CPD時間算定基準も大幅に緩和されています。

自己学習型(多様な自己学習)は、年度上限が30時間まで緩和されました。

自己研究、受講確認できないオンデマンド講座、放送大学等のTV視聴、語学学習、博物館等の見学、技術を通じたNPOやボランティア活動、展示会への参加、資格取得のための学習、講演会の資料作成、プライベートな学習会などです。

所属：産業開発コンサルタント株式会社
(E-mail: tanuma2@bronze.ocn.ne.jp)

地域本部長会議

2023年度第3回 地域本部長会議報告

九州本部長 さ たけ よしろう
佐竹 芳郎
(建設、総合技術監理・福岡)



2023年12月11日(月)機械振興会館(東京)で開催した2023年度第3回地域本部長会議の概要を報告する。

[統括本部の報告]

1. 技術士資格活用委員長から、各地方整備局の新技術活用評価会議の評価委員に、各種部門を代表できる技術士を加える働きを進めているという説明があった。今後各地域本部でその可能性を検討して欲しいとのことである。
2. 企画委員会所管の規則・手引き(補助費等)の再整備を今している。規則・手引きが10本ある他、通知や暗黙知で運用しているものがあるが、それを分かり易くしたい。今回の改正は内容の変更はしていない。

[地域本部の意見要望等]

1. 大学院博士課程の人が、修士課程と同じ研究経歴2年は不合理では?(中国)
→文科省は、大学院生の研究機関は最大2年で、残りは学生と考える現行制度は妥当と判断。また

文科省支援の「ジョブ型研究インターンシップ制度」の年数は、実務証明があれば有効とする(統括本部)

2. コロナウイルス終息後、技術士会活動が活発化しており、2024年度は県支部を含め赤字財政になっている。講演会・見学会開催補助費枠の増大の検討をお願いしたい(九州)
→見学会をWEBで行う、CPD資料の印刷は受講者で行う、現役若手世代技術士CPD行事開催補助費の活用など、工夫して経費節減をして欲しい(統括本部)

[地域本部報告]

1. 北海道本部は、地域産学官と技術士との合同セミナーを2024年2月20日開催する予定です。
2. 東北本部は、地域産学官と技術士との合同セミナーを2023年10月20日山形市で開催した。
3. 北陸本部は、地域産学官と技術士との合同セミナーを2024年2月7日開催予定です。
4. 近畿本部は、地域産学官と技術士との合同セミナーを2024年2月10日開催する予定です。
5. 中国本部は、地域産学官と技術士との合同セミナーを2023年8月26日に山口市で開催した。
6. 四国本部は、地域産学官と技術士との合同セミナーを2024年1月23日開催する予定です。
7. 九州本部は、地域産学官と技術士との合同セミナーを2023年10月28日福岡市で開催した。

所属：株式会社新英コアテクニカ
(E-mail: satake-yoshiro@ina.bbq.jp)

中央・統括本部情勢

統括本部総務委員会

総務委員会報告

にし い やすひろ
総務委員 西井 康浩

(建設、フェロー、CPD認定、博士(工学)・北九州)



第4回総務委員会および地域小委員会が、2月14日に対面型とリモート型のハイブリット形式で開催され、今回は九州本部からWebで参加しました。

このたびは、従来の総務委員会および地域小委員会の主要審議の報告ではなく、地域小委員会の中で今、最も熱く審議されている『名誉会員推薦規則の改訂について』にフォーカスして報告をします。

まず日本技術士会が定める名誉会員に関する規定は、日本技術士会規程一覧の『会員の入退会等に関する規則（管理番号：IPEJ 12-23-2019）』の『第2章 名誉会員』に、「第7条 理事会が定める規定により、本会に対する貢献が顕著であるとして理事会が承認した正会員を名誉会員と称する」とあります。続いて、「2 前項の名誉会員については年会費の支払を免除することができる」と記されています。つまり77歳時点での日本技術士会への貢献度を数値化し、一定の要件を満足された方を推薦する制度

です。

現在の名誉会員規則は、日本技術士会が全国組織になる以前に定められた規則を基本としていたため、必ずしも地域組織で活躍された方の貢献度評価が十分ではありません。そこで、地域組織で活躍される方の貢献が名誉会員推薦に当たって評価されるよう、規則を改める検討を行っているのです。基本的な考え方は、貢献を適切に評価することであり、人数の上限などは定めていません。しかしながら多くの名誉会員を生み出してしまうと、名誉会員のステータスそのものが下がってしまうことから、評価の点数の設定に当たって、以下の主要な改正点を熱く審議しています。

- ① 地域組織幹事選出選挙で当選した幹事以外の委員も評価対象に加える。
- ② 地域組織および傘下の県支部の委員会の委員長や副委員長などの役職者はさらに加え、事務局長、事務局次長にも評価点を付与する。
- ③ 地域組織に設置された部会の部会長、副部会長、さらに幹事にも評価点を付与する。
- ④ 単年度に多くの評価点を得て名誉会員候補者になるのは、その目的にそぐわないので、評価点に計上できる役職はフェロー会員を除き、1年で最大3役までとする。

この侃々諤々の議論、もう少し続きそうです。

所属：西井技術士事務所
(E-mail: nishii-yasuhiro@seagreen.ocn.ne.jp)

委員会・部会報告

合同役員会

合同役員会報告

～新体制で動き始めました～

九州本部事務局長 たら ち まる
寺地 守
(建設・福岡)



2023・2024年度の役員変更後11月10日第2回合同役員会が開催されました。議事録はHPの会員専用にアップされていますのでそちらをご覧ください。ここでは、議事の背景、今後の動きに向けて報告します。

まず会議運営ですが、コロナ感染への対応以降、オンライン会議が定着しました。事前の資料配布や、当日の機材準備が伴いますが、県支部や委員会でも習熟の上、活用されることを期待します。

この時期の会議では予算案がテーマとなります。また2025年熊本開催の全国大会準備も報告されました。コロナの終息に伴い従来の活動が活発になりつつありますが、オンライン方式などの経費節減で全国大会の成功に向けて万全の準備を図りたいものです。

技術士の責務である継続研鑽に関してCPD登録認証制度が2021年9月から始まっています。受講証（従来の参加票）の発行も統一しながら建設系CPD協議会への申請など、他の機関との相互連携を進め会員の受講機会を拡げておりますのでご活用願います。本会は、技術士試験機関であるとともにCPD登録認証事務機関を担い、一層の透明性、公平性が求められます。よって対外的な活動、名義利用など一定の要件、規則の下に認められてきました。役員会ではこれらを審議し、また情報の共有を図っております。

報告事項では、理事、地域本部長、総務委員からの報告のほか、今回初めて統括本部（倫理委員会、社会委員会、防災支援実行委員会）への選任の九州からの各委員から活動状況の報告を受けました。委員の方へは九州からの発信とともに管内の会員活動に反映していただくことを期待します。

10月から消費税のインボイス制度に伴い、領収証の受発行の書式が変わりました。またCPDの参加票も受講証となり参加者氏名も明記しております。時代の流れに対応して技術士の活動が円滑に進むよう事務局でも進めております。ご意見、要望などあればお近くの役員、県支部事務局へ申し出願います。

所属：日本地研株式会社
(E-mail: terachi@chiken.co.jp)

総務・企画委員会

総務・企画委員会 の2023年度活動報告

総務・企画委員会委員長 **すえまつ まさのり**
末松 正典
(機械、総合技術監理・北九州)



総務・企画委員会は2021年度に発足して現在まで約3年間活動してきた。当委員会が所管する業務は下記の10項目である。所管項目が多いため、3グループに分けて対応し、2023年度はそれぞれ活動を行ってきた。

- (1) 本部の組織・運営管理に関する事項
 - (2) 本部主催行事の企画・実施に関する事項
 - (3) 事業計画・報告案作成に関する事項
 - (4) 財務の管理に関する事項
 - (5) 統括本部・他地域本部・県支部及び他団体との連携に関する事項
 - (6) 役員会運営及び実施に関する事項
 - (7) 会員の顕彰に関する事項
 - (8) 会員拡大に関する事項
 - (9) 国際的活動に関する事項
 - (10) その他、他の委員会の所掌にない事項
1. 第1グループ；(4)(5)(6)(7)を所管。

- ・項目(4)；九州本部の予算立案と収支決算状況の把握に努めた。
- ・項目(5)；統括本部委員会に新たに委員参加した。また他地域本部等との共催や活動への参加を図った。
- ・項目(6)；九州本部全体での活動内容を概括するなどにより情報の共有化を図った。
- ・項目(7)；会長表彰や本部長表彰等において、該当者の調査検討により推薦案を整理した。

2. 第2グループの活動；(2)(3)(5)を所管。

- ・項目(2)；講演者の候補紹介などへ対応した。
- ・項目(3)；九州本部活動計画や成果に対し精査や必要に応じて意見を述べる等に対応した。
- ・項目(5)；統括本部の理事や委員に就任されている方からの情報や、九州本部各県支部との交流を通して要望や情報を取り入れて対応した。

3. 第3グループの活動；(1)(8)(9)を所管。

- ・項目(1)；統括本部の役員会や委員会への出席・参加情報を基に対応を検討した。
- ・項目(8)；「先進建設・防災・減災技術フェアin熊本」への出展等、技術士資格や活動の広報・普及に努めた。
- ・項目(9)；国際的活動に関する事項については、日韓技術士交流会がある。統括本部の情報により対応する予定である。 所属：末松技術士事務所 (E-mail：suematsu@hkg.odn.ne.jp)

地域産業支援委員会

技術相談を増やす ための取組みの紹介

地域産業支援委員会委員 **たぐち ひろゆき**
田口 宏之
(機械・福岡)



九州本部への技術相談を増やすための取組みを進めている。今回は2つの取組みについて紹介する。

1. リーフレットの改訂

「技術相談のご案内」のリーフレットを昨年12月に改訂した。委員会で議論を重ね、2018年以来約5年ぶりの改訂となった。1000部印刷し九州本部の事務所に保管しているので、お立ち寄りの際にはぜひ内容を確認して頂ければと思う。また、技術相談につながる配布先にお心あたりがあれば、地域産業支援委員会にご連絡頂ければ幸いである。

2. 情報発信方法の検討

技術士会には多くの専門家が在籍するにも関わらず、技術相談が少ないのは、九州本部からの情報発



図1. 改訂したリーフレットの表紙

信の不足が原因の1つと見ている。そこで各技術士が持つ専門技術を社会に向けて発信する仕組みを構築したいと考えている。どのような発信方法が適切なのかについては、現在、委員会で議論しているところである。まずは、委員会のメンバーがweb記事を執筆し、これをたたき台として情報発信の方法を検討していく予定である。

所属：田口技術士事務所
(E-mail：taguchi@taguchi-peoffice.com)

委員会・部会報告

防災委員会

防災委員会報告

～災害時支援活動計画（SAPD）並びに、
災害復興支援プラットフォームについて～

防災委員長 **石本 俊亮**
(建設、総合技術監理・福岡)



1. はじめに

2024（令和6）年1月1日は、防災支援委員会では災害時を想定した171災害伝言ダイヤルによる、関係委員の安否確認訓練を行うということで、早朝から日本技術士会に設定されている電話に安否情報を送信することから始まりました。この段階では、災害伝言ダイヤルも訓練モードということになっていました。

ところが、16時10分頃に発生した能登半島珠洲市付近を震源とするマグニチュード7.6の地震により、災害伝言ダイヤルは、本運用に切り替えられています（2月20日時点）。その後、防災支援委員会では、災害時活動支援計画（SAPD:Support Activity Plan at Disaster）に基づき、活動を開始しました。

2. 災害時支援活動計画（SAPD）策定までの流れ

1) 防災支援委員会の目的

統括本部防災支援委員会の目的は、「大規模災害発生時あるいは災害被害の軽減を目的とした平時からの技術的支援活動などを通しての全会並びに会員としての社会貢献活動」にあるとされています。

2) 防災支援委員会事業継続計画（BCP）の策定

上記の目的を達成するために、防災支援委員会が非常時にも防災支援活動が機能するように、2010（平成22）年9月に防災支援委員会事業継続計画（BCP）が策定されました。その後、2011年の東日本大震災の活動等を踏まえ、内容が見直され2012年4月に改訂版が策定されています。

3) 災害時支援活動計画（SAPD）の策定

その後、自治体との災害時支援協定の締結や、2014年に発生した平成26年8月豪雨での広島市の土砂災害や、平成28年（2016年）熊本地震などの経験を踏まえ、災害時支援活動計画（案）として、防災支援委員会事業継続計画（BCP）が見直されることになりました。

その際に、計画策定案が事業継続（BCP）というより、自治体等への支援活動の行動計画を中心とされたことより、事業継続計画（BCP）から災害時支援活動計画（SAPD）へ改められ、2017

（平成29）年8月に策定されました。その後、2019（平成31）年の防災支援委員会運営規則変更承認を受け、見直し作業を続け2022（令和4）年9月に現在の災害時支援活動計画（SAPD）が定められました。

3. 災害復興支援プラットフォーム（PE）の概要

1) 発動基準

発動基準とは、大規模自然災害の発生時に防災支援委員会が支援活動を開始（災害復興支援プラットフォーム：PFを設置）する災害規模の基準で、震度6弱以上の地震や風水害などその他の災害においては「激甚指定」相当規模とされています。

2) 災害時支援活動計画フロー

発災直後では、防災支援委員会関係者の安否確認や被災地情報の共有を行います。その後、災害名を冠した災害復興支援プラットフォーム（PF）を防災支援委員会内に設置し、被災状況、被災地ニーズ、自治体からの要請、支援情報等を共有し、災害協定に基づく自治体からの要請を受け、必要な支援活動を行うこととされています。

4. これまでの活動事例

災害復興支援プラットフォームが初めて設置されたのは、2019年台風19号による豪雨災害となっています。このときの活動記録は、防災支援委員会HPの主な活動に「2019年台風19号災害復興支援プラットフォーム」として詳しく載っていますので、そちらを参照ください。

5. 令和6年能登半島地震への対応（2月20日時点）

1) 令和6年度能登半島地震災害復興支援PF設置

防災支援委員会では、発動基準に従い1月2日午前9時にPFを設置し、1月3日に防災支援委員会緊急幹事会、1月11日防災支援委員会緊急会議を開催し、活動方針等を審議・検討しました。

2) 災害復興支援の取組み表明

防災支援委員会では、幹事会等を通じた意見交換を進める中で、1月9日に防災支援委員会HPに掲載した、「令和6年度能登半島地震支援への今後の取組み」を取りまとめました。この中では、技術の幅広い視点からの支援の実践、他士業団体との連携、技術的課題について専門家としての説明や復興計画策定支援など、技術士会として取組む内容が具体的に示されています。

復興事業は長期間にわたります。時宜に応じた技術士の役割果たすため、PFが重要な役割を果たすことが期待されます。

所属：株式会社CTIグランドプランニング
(E-mail: toshiaki_ishimoto@yahoo.co.jp)

研修委員会

九州本部12月度 CPD報告

副本部長・研修委員会委員 **きよさき 清崎 淳子**
(応用理学、博士(理学)・福岡)



令和5年12月2日(土)、福岡商工会議所の406号～407号室において、2023年12月度CPDが開催された。Web配信併用であり、56名(会場32名、Web24名)の参加があった。会場ではコロナ対策を継続しており、座席数の1/2程度に制限した。

12月度は午後のみの2講演で、1件は健康講和としている。佐竹本部長より開会の挨拶、技術士会の近況報告があった。

以下、講師2名の講演概要を記載する。



写真-1 会場の様子

1.「すい臓癌を治せる時期に見つける方法アレとコレ！」講師:田中雅夫氏(下関市立市民病院理事長・院長／九州大学名誉教授・日本膵臓学会名誉理事長・日本外科学会名誉会頭／博士(医学))

難治癌の代表格とされる膵臓癌(膵癌)は、高齢化と共に近年増加傾向にある。50歳以下の若年発癌でも増加傾向にあり、他の癌と同様に小さいうちにより早く診断することが重要である。発癌リスクには、年齢の他喫煙、家族歴、肥満、アルコール性慢性膵炎、糖尿病、さらに癌と違って膵に嚢胞を作る膵管内乳頭粘液性腫瘍(IPMN)があげられる。生存率を上げるため小膵癌をより早く診断する必要があるが、そのために今注目されている糖尿病(アレ)とIPMN(コレ)について詳細を述べられた。



写真-2 田中講師

講演は、糖尿病と膵癌、小膵癌の診断の契機、IPMNの二重の発癌性という項目で、貴重なデータと豊富な画像データを用いて進められた。初めに、五臓六腑に入らないわかりにくい臓器である膵臓の重要な機能や膵腫瘍の説明があり、膵臓癌の怖さやその理由、避ける方法はあるのかという点、さらに早く見つける方法の紹介があった。罹患率や死亡率など具体的な数値は印象深く、研究が進んでわかってきたことをわかりやすくお話しいただいた。特に

貴重な機会である健診の尿検査や血液検査の結果(尿糖陽性を初めて指摘される・アミラーゼが高い)を放置しないことや、もっとも確実なMR検査を受けること等をご教示いただき、膵嚢胞外来の病院をご紹介いただいた。ただ、全国に72施設しかないとのことであり、人材不足も課題であることが示された。

2.「最新の数値モデルを用いた関門海峡歴史イベントの再評価」講師:西井康浩氏(西井技術士事務所代表・建設部門／博士(工学))

海上交通の要衝であり、地政学的に重要な地域である関門海峡は、複雑な潮流が歴史イベントにも影響を及ぼしていると評価されており、最新の数値モデルを用いた工学的アプローチに



写真-3 西井講師

による再評価の結果を紹介された。講演のサブタイトルは「～なぜ、平家が負け、武蔵が遅れ、長州藩が敗れたか～」である。

歴史考証を行なったのは、壇ノ浦の合戦、巖流島の決闘、下関戦争の著名な3つのイベントである。史実と潮流の関係についての再評価には、最新の海洋数値モデル・FVCOM(Finite Volume Coastal Ocean Model)が用いられ、潮流の影響が再現された。複雑な海岸線や海底地形の表現、波の動きや潮位等の物理的な変化量等、計算の負荷が大きい中、自然条件の再現等可能な限りの情報を投入された予測値から、時空間的な推測を展開し考証が進められたことが紹介された。背景となるイベントの歴史書による紹介等、幅広く理解を進めることができた。

壇ノ浦の戦いでは、言い伝えの潮流の影響ではなく『片瀬』の卓越による動きで平家軍の船団の動きが制約され、攻撃により漕ぎ手を失ったことが敗戦の一因となったと考証された。巖流島の決闘では、潮流の特性を考察した武蔵が東流を利用した退路を計画し、わざと到着を一刻半遅らせたと考証された。下関戦争では地形や潮流を事前調査した四国艦隊が布陣を考え、西流・東流を利用した砲撃により長州藩の戦意を叩いたと推定する考証がなされた。

以上の研究は九州大学大学院の山城 賢教授、井手善彦助教と西井氏の共同研究の成果であり、NHKのテレビ番組『歴史探偵』でも紹介された経緯がある(山城教授出演、2022年)。海岸工学の科学技術の新展開として、歴史考察の再評価ないしは検証に応用できることを示したものであり、科学技術の応用先として、また異分野コラボレーションの事例として、大変興味深い講演であった。

所属:株式会社クロスエンジニアリング
(E-mail: j1u1nj1u1n@yahoo.co.jp)

委員会・部会報告

倫理委員会

2023年度 九州本部倫理CPD
～九州・中国共同倫理イベント～
『若手とともに考える技術者倫理』
兼2023年度第3回定例会の報告

倫理委員会委員 くばら まさや
久原 正也
(金属・長崎)



1. はじめに

2023年11月25日(土) 13:00～17:00までの4時間、福岡商工会議所会議室で九州・中国共同倫理イベントを開催した。

【テーマ】

『2023年版技術士倫理綱領～改訂経緯とともに』

【演題】

技術士倫理綱領の改定と技術者倫理事例紹介
統括本部倫理委員会 委員長 塩原亮一 氏

【講演概要】 技術士倫理綱領の改訂について経緯や主なポイントの説明があり、質疑では「事例集」における固有な情報の取り扱い、技術者倫理教育者相互の情報交換の場の設置、労働法令遵守と仕事の質の確保など質問があり、意見が交わされた。



塩原亮一 氏

【テーマ】

『私の技術者倫理～若手技術者に向けて～』

【演題①】

つまずきながら倫理を学ぶ～技術者倫理教育の難しさ～

中国本部倫理委員会 川本明人 氏

【講演概要】 「モラルの延長線上に技術者倫理がある」という意見から、モラルと倫理の関係、モラルの真の姿、モラルの基本構造、モラル意識の分類など、



川本明人 氏

モラルについて説明がなされた。技術者倫理教育について、講師のシラバスの内容、倫理の変遷、工学

倫理、倫理問題解決の考え方、リスク学の考え方を応用した方法などについて、倫理を学ぶ指針となる考え方が紹介された。

【演題②】

私の技術者倫理～若手技術者に向けて～
九州本部倫理委員会 佐藤光雄 氏

【講演概要】 倫理綱領

の力点は、根幹・基盤的な素養に置かれており、成長・創造的な素養は別の意識的な取組が必要とし、チャレンジ精神を実行すること、目的志向が未来を拓き、イノベーションを起こすことが重要であるとした。



佐藤光雄 氏

【ワークショップ】

『技術者倫理に関する若手ディスカッションワーク』

【内容】 適正科目

【課題1】 公共性の高い施設や設備の建設における新技術・新工法を採用する場合において、開発担当技術者、現場責任者、社外の技術評価機関や発注者、関連団体などの立場で判断・行動した創作事例である。



ワークショップの様子

ディスカッションメンバーや参加者(会場・WEB)から選択肢ごとに正誤とその理由について意見が出された。



ワークショップの様子

【課題2】 技術者が具体的な倫理判断を行う際の根拠となる究極的、抽象的な倫理原理に関する記述について適切さを問う設問である。

「最大多数の最大幸福の実現」や「有徳さ」、「功利主義原理」などのキーワードに対し、多面的に考える必要性や少数意見の取り扱いなど議論が活発に行われた。

所属：久原技術士事務所
(E-mail: hayabusa2.418999138@gmail.com)

青年技術士交流委員会

第49回技術士全国大会 (愛知)参加報告

青年技術士交流委員会委員 **わたなべ たけし**
渡辺 剛
(機械・福岡)



はじめに

2023年11月17日～20日に、第49回技術士全国大会(愛知)が開催されました。前回は2022年の第48回大会(奈良・関西)でした。

私が技術士登録をしたのが2019年ということもあり、これまで技術士全国大会への参加機会はありませんでしたが、「青年」の研鑽グループ幹事になり、また次回の北海道大会の後に九州大会が予定されていることもあり、現地参加の経験を積んでおくために参加しましたので、日記形式で報告します。

11月18日(土)

名古屋市国際会議場で行われた第3分科会(青年)に参加しました。BIPROGY(株) 上席研究員の齊藤哲哉氏による「ついしたくなる仕掛けで社会課題を解決するワークショップー視座を変える思考プロセスのつくりかたー」を受講しました。ここでは、目的の二重性を満たす仕掛けを班ごとに学びました。二重性とは、仕掛ける側・仕掛けられる側の意図がそれぞれ異なる一方で、両者の目的は一致するという制約です。ごみ箱の上にバスケットゴールがあるとごみを投げ入れてしまうことが楽しいことから、ポイ捨てが減って街がきれいになる効果があるといった事例が紹介されました。「真実の口」の形をした手指消毒アルコール噴霧器や、歩くとピアノの音が鳴る階段なども紹介されました。



名古屋市国際会議場受付(左)と入口の彫刻(右)



11月19日(日)

ららぽーと・みなとアクルスで開催されたテクノツアーに参加しました。低炭素なまちの実現に向けて、電気、熱、情報のネットワークを構築し、24時間体制でエネルギーを供給するセンターを見学しました。地震津波を想定した発電機は2階フロア以上に設置されていました。避難場所は、ららぽーと屋上(下図)に設定されていました。海拔の低い港湾地区の眺望景観が良かったです。



ららぽーとの屋上から眺める「みなとアクルス」

テクノツアーでは見学の順番を班で分けてありました。休憩時間も有効に使えるよう、見学と昼食は交代制になっており、お弁当(下図)をいただきながら中部青年スタッフの良い段取りに感動しました。



テクノツアーでいただいたお弁当

おわりに

参加者に配られた「赤の他人キャンディ」が思い出深いです。職場で配るお土産は、数と味のバランスに悩むものですが、50個入りなのでバラマキ用としても余裕があります。味も良いです。皆様も名古屋に立ち寄られた際にいかがでしょうか。

所属：日本タングステン株式会社
(E-mail: watatake@nittan.co.jp)

委員会・部会報告

北九州地区支部支援委員会

2023年度第14回公開シンポジウム・交流会実施報告

北九州地区支部支援委員長 **坂田 一則**
(金属、総合技術監理、博士(工学)・北九州)



1. はじめに

2023年12月9日13時から北九州地区支部第14回公開シンポジウム及び北九州地区支部創立40周年記念交流会と技術士第二次試験合格祝賀会を小倉リーセントホテルにて、九州本部から佐竹本部長他のご参加をいただき開催した結果を以下、報告する。

2. 第14回公開シンポジウム

「海洋プラスチックごみを生活から考える～今、私たちの技術を使ってできること～」をテーマに、66名(会場41、Web25)の参加者を得て開催した。

第一部は、基調講演「海洋環境分野に関する問題提起～海ごみ問題：変化する市民・企業の関わり方～」を九州大学 清野聡子准教授に行っていただき長年の研究・活動に基づく問題提起が行われた。

次に、第二部のパネルディスカッションでは、モデレーターを清野准教授として、以下の6氏にパネラーとして登壇いただいた。

- ① 赤田篤史氏：宗像市総務部秘書政策課
- ② 林 英治氏：九州工業大学 教授
- ③ 古市 真氏：シャボン玉石けん(株) 製造部長
- ④ 芳賀裕之氏：(株)エコエナジー 代表取締役
- ⑤ 権田幸祐氏：(一社) シーズンズ代表理事
- ⑥ 山崎 唯氏：(一社) くらげれんごう代表理事



写真1. パネルディスカッション

第三部として、「解決に向けて何ができるか」について、パネラー向けに参加者(技術士・一般参加者)から事前に質問を提出いただき、活発で有意義な議論を行い、ディスカッション内容を図1.のように会場でとりまとめ、内容の共有を図った。

技術	制度・ルール
・技術開発までは時間がかかる ・大学では、新たな課題に対し、若く柔軟な発想を持つ学生がスピーディーに課題に取り組む ・カーボンニュートラル目標に向けて、プラごみも「ケミカル・マテリアルリサイクル」の方向へ ・生分解プラスチック技術の普及	・海ごみの処理は、陸上のごみと比べ制度的に難しい ・ごみ拾い、ごみ処理のプレイヤーが分断されている ・エリアにより責任の所在が分かれる ・法改正すべき：現状を分析・整理し、法改正の必要性を提案。その際には、受け皿となる技術が必要 ・漁具のトレーサビリティの仕組み
住民参加	その他
・まだアクションを起こしていない人へアプローチする ・学ぶだけでなく、「モノ」を消費する行動の継続 ・子どもから大人に伝わることも多い(子どもを巻き込む) ・多数の主体が関与しなくてはならない(子どもを巻き込む) ・子どもにドヤ顔させる ・やってみたいけれどもわからないことも多い(多くの人に経験いただく)	・海ごみではなく「海資源」へ価値観を変える！ ・取組をビジネスへつなげていく ・分野の境界を無くし、専門家を育てる ・研究・技術開発⇄現場とつなぐ ・アイデアをつなぐ人を育てる

図1. ディスカッションのまとめ

3. 北九州地区支部創立40周年記念交流会と技術士第二次試験合格祝賀会

同日・同会場にて、17時30分からコロナ禍で延期していた北九州地区支部創立40周年記念交流会と技術士第二次試験合格祝賀会を開催した。4年ぶりの対面での開催で、技術士34名、講師7名、一般2名の計43名の参加があった。技術士間、公開シンポジウムの講師・パネラー及び一般参加者と交流・懇親を深めることができた。



写真2. 交流会会場での記念写真

4. 終わりに

公開シンポジウム・交流会の開催に当たり、牟田副代表・宮崎副代表を中心に幹事一丸となって取り組むことができた。北九州地区支部として新しい足跡を残すことができた。今後共、技術士会を発展させるために力を合わせて参る所存です。

所属：坂田一則 技術士・労働安全コンサルタント事務所 (E-mail: ksakata@bronze.ocn.ne.jp)

環境部会

環境部会報告

環境部会長 ^{まつだ} ^{けんし} 松田 研志
(上下水道、建設、総合技術監理・福岡)



1. はじめに

環境部会は、福岡地区の上下水道部門、衛生工学部門、環境部門の技術部門の技術士が構成員であり、部会員の継続研鑽、関連学協会との連携を主たる活動目的としています。

本稿では、技術講演会について報告いたします。

講演会のテーマは、環境部会委員で協議し、豪雨災害の原因となっている「線状降水帯」と関連学協会の1つである水環境学会に関連して「地域水環境の保全」としました。

2. 技術講演会

環境部会の技術講演会を2023年11月27日（月）に実施し、26名の参加がありました。

2-1. 地球温暖化と極端現象

「線状降水帯」をテーマとした講演は、「地球温暖化と極端現象～その科学的知見と気象庁の取組～」の演題で気象庁福岡管区气象台 気象防災部 小島直美氏に講演していただきました。

講演内容は以下のものであり、近年の気候の特性と将来予測について幅広く、且つ、分かりやすく説明していただきました。

1. ICPPの最新の報告書の概要
2. 日本における長期変化傾向
3. 気象・気候予測モデルと予測方法
4. 日本の将来予測
5. 気候変動と大雨
6. 線状降水帯に関する気象庁の取組
7. まとめ

この中で「線状降水帯」に関しては、令和5年の実績は、的中率は、22回中9回であった。今後の改善の取組は、『線状降水帯の発生をお知らせする情報を、①次期静止気象衛星等を活用して、現在の広域での予測から市町村単位で半日前から予測できるようにすること、②現在30分前倒して発表しているのを2～3時間前を目標に発表すること』であるとのことでした。

2-2. 地域の水環境保全を目指して

「地域水環境の保全」をテーマとした講演は、「地域の水環境保全を目指して～脂肪酸を用いた水圏生態系の食物網解析～」の演題で九州大学大学院工学研究院 都市環境工学研究室 藤林 恵氏に講演していただきました。

講演内容は以下のものであり、食物連鎖を解析する手法の進展と食物網活用の事例について、分かりやすく説明していただきました。

1. 食物連鎖と食物網
2. 食物連鎖を解析する方法
3. 胃内容物調査
4. 炭素・窒素安定同位体比
5. 脂肪酸を用いた食物網解析について
6. アオコ問題は食物網を活用して対策可能か？

この中で「地域水環境の保全」に関しては秋田県八郎湖で発生したアオコを事例として、調査方法と調査結果について具体的に説明していただきました。

アオコの原因である藍藻（生産者）⇒ゾウミジンコ（一次消費者）⇒ワカサギ0才（二次消費者）⇒スズキ（三次消費者）の食物網が確認されていました。この事実を基に、様々な対策の立案が可能になると考えられます。



3. おわりに

環境部会では、2023年度に「天神ビッグバン」の現地視察研修会と上記技術講演会を実施いたしました。環境部会では、現在、2024年度の見学会と講演会の内容を検討しています。今日的なテーマで、より多くの方の参加を期待できるテーマを目指していますが、会員の皆様で、希望される見学先、関心がある講演会のテーマがありましたら、以下のアドレスにご連絡ください。よろしくお願いいたします。

所属：松田技術士事務所
(E-mail : matsu1@docomonet.jp)

委員会・部会報告

建設部会

技術講習会 CPD報告

建設部会幹事 ふじしま 藤島 よしひさ 義久
(建設、総合技術監理・福岡)



2024年1月23日(火)に開催しました建設部会技術講習会について報告いたします。参加者は、会場参加とオンライン参加の合計32名でした。

1. 道路ネットワーク分析と路線価の変遷からみる 次の一手～大分市中心市街地におけるケーススタディ

講師：姫野由香氏(大分大学理工学部准教授)

姫野氏のご専門は、建築・都市計画で、ご講演は、まちづくりへの想いを絡めた自己紹介から始まりました。

ご研究の対象は市街地から離島や中山間地等までと多岐に渡る中で、都市と地方の共通点をデータとしてどう捉えて地域の魅力を強化するかが重要で、学生が毎年変わっても、地域の方が運営してきたシステムの公定化が求められ、そこに建築・都市計画の技術を活用する意義があると強調されました。

ここから今回の主要テーマである地域の魅力向上に向けて、氏がこの都市計画の技術と科学的知見に基づいて展開した大分市中心市街地での事例に本講演を繋げられました。

大分駅周辺総合整備事業は、駅周辺の土地区画整理事業や鉄道の連続立体交差事業、街路事業から構成され、その概要と効果として地域で起こった景観やまちの印象の変化を貴重な画像で紹介されました。

その変化は科学的・客観的にとらえる手法として、スペース・シンタックス理論を活用した道路ネットワークの変化に路線間接続の強さであるインテグレーション値と路線価との関連で説明され、歩道のネットワーク分析も加味して事業の整備効果を例示されました。この手法は多変量解析の一つであり、道路幅員と路線価の変化などからまちづくりの効果や意義を定量化・公定化するという興味深いものでした。さらに、次の一手として、これらの分析結果を活用して大分駅と県庁や市役所に挟まれた大分市中心市街地の未来像について、核となる主要道路の



講演者 姫野由香准教授

計画や広場のあり方と路線価の変化から想定できるという提案でご講演を結ばれました。

2. コンクリート分野における脱炭素社会に向けた取り組み

講師：尾上幸造氏(熊本大学大学院教授)

尾上氏は、土木材料・施工・マネジメントをご専門の軸に、産業副産物や未利用天然資源のコンクリートへの有効利用など、先進的な研究に意欲的に取り組まれています。

今回のご講演では、国内外におけるコンクリート分野での近年の取組は脱炭素を鍵にカーボンニュートラルに果たす役割としてとても重要と述べられました。

IPCC報告書では世界の平均気温は今後とも上昇が続くとされ、改めてCO₂の大幅な削減が急務であり、セメント生産に伴うCO₂排出量は世界全体で8%、日本は減少傾向にあるものの、その割合は3.5%であり、カーボンニュートラルに果たす削減効果は大きいとされています。イノベーション・アクションプランの重点領域で成長が期待される分野の一つに、カーボンリサイクル・マテリアル産業があり、CO₂を利用したコンクリート等製造技術の紹介をされました。その方策は、コンクリートでカーボンニュートラルを目指すには、CO₂そのものを回収・有効活用も取り入れる対策でなくてはならないとされ、排出削減に期待できる生産段階での方策について具体的なデータを交えて説明されました。コンクリートの中性化は鉄筋が腐食しない限り、大気中のCO₂を吸収固定化する現象であり、このCO₂を回収・有効活用する取組は国内外で積極的に進められているとまとめられました。

関連して、カーボンニュートラルに向けて生産段階での効果が注目されるジオポリマーの製造方法での最適化に関する研究を紹介されました。ジオポリマーはセメントの代替材料として開発が進められており、配合設計法や品質に課題があるとされ、その解決策の事例として最適解の探索にタグチメソッドを取り入れた手法を説明されました。再現性の検討など、具体的な分析事例でジオポリマーの特性を整理され、全体としてのご講演を結ばれました。

3. おわりに

今後とも建設部門の魅力や役割を幅広く発信できるよう取り組んでまいりたいと思います。

所属：株式会社日建技術コンサルタント九州支社
(E-mail: pfujishima0720@yahoo.co.jp)



講演者 尾上幸造教授

建設部会

建設部会報告

建設部会長 おかだ ひろあき
岡田 裕彰
(建設、総合技術監理・福岡)



九州本部建設部会は13名の幹事(3月末現在)で構成されており、会員の皆様の技術研鑽を図る現地見学会や技術講演会の企画・運営等を行っています。

以下、建設部会の昨年度(令和5年度)の主な活動実績について報告します。

昨年度の現地見学会は「洋上風力発電」をテーマとし、10月19日に北九州市立大学及び北九州市若松区・戸畑区の洋上風力発電関連施設で行いました。

当日は好天にも恵まれ、普段立ち入る事のできない施設に入って詳細な説明を受けるなど、大変貴重な見学会とする事ができました(33名の参加)。

なお、詳細については建設部会藤井幹事が技術士だより138号で報告していますので、ご参照ください。

次に、建設部会技術講演会は約2年ぶりとなる2024年1月23日に開催しました(32名の参加)。

講演会の詳細については、本誌で建設部会藤島幹事が報告していますので、併せてご参照ください。

前回の講演会(2022年1月開催)はコロナ禍の中、感染対策としてWEB中継で実施しましたが、今回は「対面+WEB」形式での開催に挑戦しようと、担当幹事(緒方・末津・友納・原田の各氏)を中心にteamsの操作・運用等に悪戦苦闘しながらも幾度も演習を重ねて実現したものです。

その他の活動として、第49回技術士全国大会が名古屋市で開催され、関連行事として開かれた建設部会意見交換会に参加しました(11月17日開催)。

この会議は、全国の各地域本部(建設部会)の活動内容や課題について相互に情報交換を行える貴重な機会であり、得られた情報はこれからの建設部会の活動に活かしていきたいと考えています。

最後になりますが、既にご承知のとおり技術士CPD活動実績の管理・活用制度が令和3年9月から始まり、今年で3年目となります。

この制度は技術士のCPD活動実績を技術士登録簿に記載できるなど、技術士のCPD活動の状況を公的に裏付け活用を図るものです。

また登録がお済みで無い会員の皆様は、積極的な実績登録をよろしくお願いします。

所属：西鉄シー・イー・コンサルタント株式会社
(E-mail: okada@ncec.co.jp)

ものづくり部会

活動報告

ものづくり部会長 にし お ゆき お
西尾 行生
(機械、博士(工学)・福岡)



1. 部会の説明

ものづくり部会は、機械部門、海洋・船舶部門、航空・宇宙部門、電気電子部門、化学部門、繊維部門、金属部門、資源工学部門、経営工学部門、原子力・放射線部門、情報工学部門の技術士343名を擁する部会です。

2. 役員とメンバー構成

役員は部会長も含め16名で皆様の部会活動のお手伝いをしております。16名のうち金属部門、化学、電気電子、機械、情報、環境、応用理学など多様な部門から、更に地区で言いますと福岡、北九州、長崎、熊本、鹿児島という多様性を重視したメンバー構成になっております。九州本部の役員は、頻繁に福岡の本部事務所に集まることが求められ、地方の方が参加しにくい状況でしたが、当部会は、関連する部会の皆様の意見を反映させることが重要ですので、ほぼすべてをオンライン化し、いつでも、どこからでも活動に参加できることを目指しております。

3. 活動と事例

年5回程度の役員会でCPDや見学会を計画し実施をします。当会規約の大きな目的は、社会に貢献

することですので、単に「ご講演いただきありがとうございました」では終わらず、大学や国研、関係省庁、企業の講演者の皆様とのその後のお付き合いも重視します。昨年は長崎大学の見学会を通じ、大学の産学連携部門と深い関係を結ぶことができました。少しずつではありますが、共同研究の紹介など連携を始めております。

今後の計画ですが、CPD講師も統括本部や役員を紹介をもとに全国区で考え、部会を通じて、他の機関や国との連携も考えていきたいと思っています。

ものづくり部会がすべき、こういった活動の具体的なものは、経済産業省にかかる中小企業への研究開発支援、知財支援、環境省にかかるリサイクル、廃棄物処理技術の支援、厚労省にかかる医工連携、文科省にかかる大学とのコラボレーションや教員の業務、法務省にかかる技術支援などがあげられます。これらの中にはハードルが高いものもありますが、まずは役員が先例を作って皆さまにCPDなどで情報を共有できるようにしたいと思います。

4. 皆様へのお願い

まずは当会が主催するCPD(すべてオンラインです)や見学会に参加いただき、「自分にできることがあるな」とか「講師や機関と連携したい」と思ったら、また、沖縄、宮崎、佐賀、大分地区の方、人数が少なく活動が不活発な部門の方などで他の会員のために貢献してみようという方がいらっしゃいましたら是非役員になっていただきたいと思います。お気軽にご連絡ください。

所属：東京地方裁判所専門員第202220号
(E-mail: nishio_yukio_pe@ab.auone.net)

委員会・部会報告

みどり部会

活動報告

みどり部会長 やまべ **山部** てつろう **鉄朗**
(森林・福岡)



昨年10月31日に長崎県諫早市で令和5年度九州地区森林技術者講習会を開催し、森林・林業に関して4名の講師の方に貴重なテーマで講演をいただきましたので、その内容を以下に紹介します。

1「五島列島でのツバキを活用した地域振興の取組について」(長崎県農林技術開発センター 前田 一専門研究員)

地元、自治体、大学等が連携し、椿油を原料とする新たな商品開発とツバキの栽培方法の改良に取り組んでいる結果、栽培農家が増加し耕作放棄地へのツバキの植林面積の増加(40ha⇒144ha)と椿油やその関連商品の売り上げ増(1.46億円⇒6.60億円)が実現し、地域活性化を現在進行形で実現していることが報告された。

2「大規模岩盤崩落の復旧工事について」(長崎県県北振興局農林部森林土木課 入江 空 技師)

直下に交通量の多い県道がある長大斜面で発生し

た大規模岩盤崩落箇所での頭部の巨大な新生代で固結度が低くクリープにより亀裂が多い岩塊を安全に処理したことの紹介です。

岩塊崩落の3Dシミュレーションや高エネルギー吸収型ネットによる仮設工とICT建機の遠隔操作等の新技術を駆使するとともに、関係機関との調整による県道の安全通行も確保しながら無事工事を実施したことが説明され現場の苦労もよくわかりました。

3 日本樹木医会長崎県支部 田嶋 幸一 久保田健一

田嶋氏からは、平戸生れで約400年前にオランダから台湾を独立に導いた鄭成功ゆかりのナギやアメリカ合衆国第18代大統領のグラント将軍植樹の長崎公園のアコウなど長崎ゆかりの樹木の紹介が、また久保田氏からは樹木医会で毎年行っている被爆樹木のパトロール点検診断と治療についての紹介をされました。

被爆樹木とは爆心から3km圏で被爆し現在も生存している樹木で68本が把握されています。

その樹木を被爆による影響の程度に応じてA～Dの4ランクに分類し、健全に維持するための作業を継続し、土壌改良や施肥による樹勢の維持、腐朽部の切除やしろあり駆除等の具体的維持作業について日々の樹木医会の活動をわかりやすく紹介されました。

所属：株式会社コンサルハマダ福岡支店
(E-mail:angle26of26repose626@gmail.com)

支部だより

佐 賀

第2回技術懇話会の開催 ～地域の活性化をテーマに～

佐賀県支部 支部長 ふくおか **福岡** さとし **仁**
(建設・佐賀)



令和5年11月16日(木)に「令和5年度 第2回技術懇話会」をメートプラザ佐賀(佐賀市)で開催しました。佐賀県支部では、毎年、春と秋に技術懇話会を開催し、会員及び県内技術者のスキルアップと親交を深め、さらなる社会貢献ができるように資質の向上に努めております。今回の技術懇話会は、地域の伝統を伝え繋ぐまちづくりと地域おこしによる地元の人とのつながりへの取り組みについて、約30人の参加で行いました。

【テーマ1】：「暮らし続けたい町へ」

～柳川の伝統を伝え繋ぐまちづくり～

講師：北島一級建築士事務所 北島 智美氏
1992年に「ひた水環境ネットワーク」を設立、現在ではNPO法人としての活動が紹介され、「水郷柳

川」として知られる福岡県柳川市の掘割や古民家が並ぶ風景、お祭り、昔ながらの手仕事など、大切にされてきた暮らしにまつわるモノ・コト・ヒトを次世代へ伝えつなぐ「柳川暮らしつづ会」の活動内容が紹介されました。古民家を活用するうえで処分される質のいい家具を販売する古物市や古着物のリメイク作業を学ぶワークショップ、柳川への移住定住のサポートを積極的に行われているとのことでした。

【テーマ2】：「江里山×地域おこし協力隊」

～地域とつながり見えてきたもの～

講師：小城市地域おこし協力隊 田中 あき氏

中山間地や棚田地域の現状として、過疎化や高齢化の進行、農業の担い手不足や増加する耕作放棄地などがある。地域おこし協力隊として、美しい景観と生態系を守り、水や空気をきれいにする棚田の保全とその集落の維持に向けた取り組みが紹介されました。取り組みの内容として、地域住民による継続的な取り組みや企業によるボランティア活動があるとのことでした。

これからも、継続的に技術懇話会(CPD)を開催し、佐賀県の技術者の活動と交流の幅を広げられる内容を企画していきたいと考えています。

所属：株式会社親和コンサルタント
(E-mail:fukuoka@sinwa-consultant.jp)

長 崎

2023年度活動報告

事務局長 おりた さだよし
折田 定良
(建設・長崎)



2月も半ばを迎え、モクレンの蕾も大きく膨らんできました。年度末までは多少時間がありますが、長崎県支部の2023年度の活動報告をいたします。

6月17日(土)に諫早市において年次大会、第1回CPD研修会を開催しました。研修会には会員40名、非会員22名 計62名の参加がありました。九州本部倫理委員会より西井康浩氏をお迎えして『技術者倫理』及び、長崎県県民生活環境部の富永勇太氏による『脱炭素社会を目指す長崎県の取り組みに』についてご講演をいただきました。

研修会閉会後は同会場で4名の新規合格者を含む29名が参加して一次、二次合同合格祝賀会および交流会を開催し、盛会の内に終了しました。

9月13日(水)に諫早市商工会議所において会員33名、非会員17名 計50名が参加して第2回CPD研修会を開催しました。長崎県地域振興部 青田和寿氏『県庁舎跡地の歴史と今後の活用について』、長崎県企画部 中尾ひかる氏による『長崎県における

デジタル化・DXの最前線』、福岡県商工部 半田洋生氏『福岡県水素グリーン成長戦略』の3題で講演頂きました。

11月1日(水)に会員24名、非会員11名 計35名が参加して第3回CPD研修会を開催しました。九州本部 末松正典氏による『技術士に求められる技術者倫理(倫理と法を考える)』、北九州市上下水道局 林 祐輔氏による『SDGsの達成に貢献する水インフラの海外展開』、林氏は出張中のカンボジアからリモートで講演頂きました。さらに長崎大学大学院工学研究科 吉川沙耶花氏による『世界の水利利用と土地利用』のテーマでご講演頂きました。

1月31日(水)に会員36名、非会員13名 計49名が参加して第4回CPD研修会を開催しました。長崎県土木部 真鳥喜博氏(建設・総監)による『盛土規制法について』、九州地方整備局長崎河川国道事務所 児玉祐一氏による『道路事業の現状と今後の取り組みについて、国道57号森山拡幅』、長崎大学水産学部(学部長) 阪倉良孝氏による『ブリ類の繁殖生態』の3題です。

長崎県支部は、2023年度に正会員9名、準会員1名が加入して、2月15日現在 正会員120名、準会員24名の合計144名と順調に発展し、今年10年目を迎えます。新型コロナで中断していた見学会などの実施も2024年度には計画中です。

所属 株式会社五省コンサルタント長崎事務所
(E-mail: s.orita@zb4.so-net.ne.jp)

大 分

大分県支部新年互礼会 兼中間報告会開催の報告

幹事(広報担当) あべ つとむ
安部 勉
(建設、総合技術監理・大分)



大分県支部と大分県技術士協議会では毎年恒例となっている「新年互礼会兼中間報告会」を新年早々に開催しています。今年は1月27日にホルトホール大分において35名の支部及び協議会会員参加のもと開催されました。

中間報告会は、湯地支部長による開会挨拶の後、CPD研修会として、佐伯調査(株)紫村氏より、「福祉と技術～福祉と技術の関わり～」の演題で講演をいただきました。技術士としては福祉への工学的アプローチが思い浮かびますが、福祉分野では介助、相談、支援等の技術が主体であること、また、工学分野とは必要とされる能力がやや異なるものの、共通点もあること等、今後ダイバーシティが推進されていく中で非常に重要な分野であると再認識させられました。

報告事項では九州本部合同役員会の報告、各委員会の活動報告が行われ、研修担当の植木幹事による令和6年度CDP研修会の計画についての報告、防災担当の高橋幹事による災害時支援活動計画の報告では、石川能登地方地震に関し、統括本部内にPF(プラットフォーム)が設置されたこと、九州本部では1月末を目途に「災害時支援活動計画九州版」を作成する旨の報告がありました。

報告会後の互礼会は竹内協議会会長の乾杯を兼ねた挨拶に始まり、イタリア料理を堪能しつつ懇親を深め、情報交換を行いました。最後に、松原協議会副会長による一本締めで会を締め、散会となりました。



所属：株式会社安部組
(E-mail: abe-t.abe@shirt.ocn.ne.jp)

CPD報告

長 崎

長崎県支部 第4回CPD研修会報告

幹事(広報担当) しみず まさあき
清水 正明
(建設、上下水道、総合技術監理・長崎)



令和5年度第4回CPD研修会が1月31日(水)諫早市の「諫早商工会館」で49名の参加の下、開催されましたので報告します。

演題1.「盛土規制法について」B2

講師 真鳥 喜博氏

(県土木部盛土対策室長、建設/総監)

○令和3年7月、静岡県熱海市で大雨に伴って盛土が崩落し、大規模な土石流が発生したことにより甚大な人的、物的被害が生じた。しかし、既存の法律では、それぞれの法律の目的に限界があることから、令和5年5月26日に宅地造成及び特定盛土等規制法(通称一盛土規制法)が施行された。

この法律は、盛土等による災害から国民の生命や財産を守る観点から、土地の用途にかかわらず、危険な盛土等を全国一律の基準で包括に規制するもの

である。

2.「道路事業の現状と今後の取組みについて」A1-2

講師 児玉 祐一氏

(九州地方整備局長崎河川国道事務所副所長)

○当事務所では、道路、河川、ダム及び砂防事業を掌握している。今回は、地域の均衡ある発展を図るための高規格幹線道路及びこれと一体となって機能する一般国道34号、35号、57号、205号、497号の調査計画、改築、維持管理、交通安全施設などの事業の現状を報告する。

また、安全で、便利で、より暮らしやすい長崎の実現に向け、社会資本(インフラ)の維持管理に資する今後の取組みについても報告する。

3.「ブリ類の繁殖生態」A1-2

講師 阪倉 良孝氏

(長崎大学水産学部教授 博士(農学))

○ブリ類(ブリ、カンパチ、ヒラマサ、など)は、我が国の漁業・養殖業ともに重要な魚類であるが、養殖現魚(種苗)は、そのほとんどが天然水域で採られた稚魚に依存している。

ブリ類の産卵場は東シナ海にあるため、同海域のブリ類の生態学な研究は極めて重要であり、適切な資源管理(漁業管理)が重要である。

所属：株式会社高松設計コンサルタント
(E-mail: natsc-se6@marble.ocn.ne.jp)

大 分

大分県支部 CPD報告

研修委員長 うえ き かずひろ
植木 和宏
(建設、総合技術監理・大分)



大分県支部の令和5年度第3回CPD研修会(通算51回)は、予定通り11月18日(土)に、大分県教育会館大ホールとWeb講習会を併用し、大分県技術士会主催、大分県測量設計コンサルタント協会協力、土木施工管理技士会後援で開催されました。

講演1:「地方都市活性化にむけた景観まちづくり」

講師：柴田久先生

地方都市の衰退という深刻な問題に対して、まちの生き残りをかけた観光客や関係人口の誘致のために、景観まちづくりをいかに進めるかについて、大分県の事例を中心に解説していただきました。景観上の留意点を丁寧に解説していただき、わかりやすいご講演でした。

講演2:「大分空港海上アクセス整備事業について」

講師：中山洋祐先生

再就航を間近に控えた、ホーバークラフトに関する進捗と、連携する観光キャンペーン等の活性化策

についてご説明いただき、県民として身近な内容のご講演でした。

講演3:「老朽化管路に対する管路更生工法の役割と効果について」

講師：松山雄介先生

下水道網の整備が進む一方、老朽管の補修が追いついていない現状を踏まえ、工期が短く・コストが安く・環境負荷の少ない最新の更生工法を、数種ご紹介いただきました。

講演4:「大分県企業局の事業概要について」

講師：衛藤英二先生

主業務である水利事業において、工業用水の給水ネットワーク再構築事業(断水リスク回避)、そして再生可能エネルギーとして見直されつつある、水力発電所の更新・グリーン化事業について、ご紹介いただきました。

講演5:「既設トンネルの効果的補修補強工法」

講師：宇都宮隆先生

九州橋梁・構造工学研究会において、相次ぐトンネル崩落事故を契機に、既設トンネルの効果的補修補強工法に関する研究分科会を立ち上げ、5年に亘り研究を続けてきた成果についてご報告いただきました。

今年のCPD研修会は、技術士会の皆様のご協力で、すべて無事終了いたしました。来年も3回企画しておりますので、宜しく願いいたします。

所属：株式会社レックス九州
(E-mail: k.ueki@re-cs.co.jp)

鹿児島

2024年2月度 CPD講演会報告

研修委員会、副委員長 **宮園 穰二**
(建設・鹿児島)



1. はじめに

2月10日(土)、かごしま県民交流センターで開催した第41回CPD講演会について報告する。参加者は、36名(うちWeb参加会員2名、非会員8名)であった。

2. 講演『独学で築いた多彩な研究・技術開発履歴』

講師：伊藤 洋氏 環境技術創造研究所・
北九州市立大学名誉教授・工学博士

講演では、ご自身の大学での卒業研究、就職したゼネコンでの研究・技術開発、再就職された大学ベンチャー企業での業務、北九州市立大学での研究・開発についての概要が紹介された。マスコンクリートの温度ひび割れ制御に関する研究・開発、海水が浸透するひびわれ中の鉄筋腐食に関する基礎研究、廃棄物最終処分場の漏水位置検知システム等の開発、多機能盛土工法の開発、地中CO₂計測による地すべり予測、太陽熱集熱乾燥システムによる汚泥等の乾

燥技術開発など多彩な分野へのチャレンジの履歴が紹介された。卒論指導教授からの「成功するのは10%くらい、90%は苦しい。しかし、この10%があるからやっていける」というエピソードや「分野は違ってても技術は応用できる」というお話があり、貴重な講演をしていただいた。

3. 講演『郷土「偉人」表象活動の背景にあるもの～西郷隆盛などを中心に～』

講師：萩原 和孝氏 第一工科大学

共通教育センター講師・博士(学術)

講演では、郷土「偉人」の表象活動(本講演では、郷土「偉人」の銅像や石碑の建立、マスメディアにおける情報発信などの活動を指す)について、西郷隆盛などを具体例としてその意味や果たした役割が紹介された。戦前・戦中の国定教科書にみる西郷の描かれ方と社会の出来事を比較され、また、二宮金次郎像と時代背景を説明された。現代の私たち社会がある人物を偉人として讃えようとするときに、ふと立ち止まって、「この人物の中に見出そうとしている、私たち社会の求めている価値観や目的は何だろうか」と考えてみるのがいいかもしれませんというお話があり、示唆に富んだ講演をしていただいた。

所属：株式会社建設技術研究所鹿児島事務所
(E-mail: joj-miyazono@ctie.co.jp)

会員ニュース

公益社団法人 日本技術士会(九州本部) 入会

〈令和5年8月〉

(所在地)(区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
大分 正会員	平原 賢吾	建設	安藤ハザマ興業株式会社九州支店
福岡 正会員	柳沢 舞美	建設	清水建設株式会社
福岡 正会員	松隈 茂 森	林業	松隈茂林業技術士事務所
福岡 準会員	齋賀 雄	建設	大成建設株式会社 土木技術開発部
熊本 準会員	高橋 愛莉	水産	メタウォーター株式会社 PPP本部九州統括部

〈令和5年9月〉

(所在地)(区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
福岡 正会員	小野 拓雄	機械	八光オートメーション株式会社 営業部
福岡 正会員	川口洋市郎	建設	大分技術開発株式会社 総合技術監理
福岡 正会員	小柳 賢祐	建設	株式会社マリンサポートエンジニアリング 技術部

宮崎 正会員	田村 隆弘	建設	福井工業高等専門学校
長崎 正会員	川下 敏雄	上下水道	株式会社長崎測量設計設計調査部
沖縄 正会員	内山 鉄平	農業	有限会社地建設計部 総合技術監理
		建設	
沖縄 正会員	小野奈都美	環境	株式会社沖縄エネテックエネルギー開発部
福岡 準会員	渡邊 彩夏	応用理学	熱産ヒート株式会社技術開発

〈令和5年10月〉

(所在地)(区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
福岡 正会員	鈴木 真吾	電気電子	株式会社東京設計事務所
福岡 正会員	今林 顕二	建設	パシフィックコンサルタンツ 総合技術監理 株式会社本社事業管理部
福岡 正会員	森 義将	建設	日本ミクニヤ株式会社九州支店
		森林	技術部
福岡 正会員	森竹 巧	建設	日本工営都市空間株式会社九州支店技術部

協賛団体会員

.....[福 岡].....	[北九州].....	[大 分].....
(株)エム・ケー・コンサルタント	(株)永大開発コンサルタント	九建設計(株)
(株)カミナガ	(株)松尾設計	協同エンジニアリング(株)
(株)建設環境研究所九州支社	[佐 賀].....	ダイエーコンサルタント(株)
(株)建設技術研究所九州支社	朝日テクノ株式会社	東洋技術(株)
(株)久栄総合コンサルタント	(株)エスジー技術コンサルタント	東洋測量設計(株)
産業開発コンサルタント(株)	九州技術開発(株)	西日本コンサルタント(株)
(株)サンコンサル	(株)九州構造設計	(株)日建コンサルタント
ジーアンドエスエンジニアリング株式会社	(株)コスモエンジニアリング	日進コンサルタント(株)
第一総合技術(株)	新栄地研(株)	(株)富士設計
第一復建(株)	(株)親和コンサルタント	松本技術コンサルタント(株)
大成ジオテック(株)	精工C&C(株)	[宮 崎].....
大和コンサル(株)	(株)トップコンサルタント	(株)アップス
(株)高崎総合コンサルタント	西日本総合コンサルタント(株)	九州工営(株)
(株)テクノ	日本建設技術(株)	(株)ケイディエム
西鉄シー・イー・コンサルタント(株)	シマウチエンジニアリング(株)	(株)国土開発コンサルタント
西日本技術開発(株)	[長 崎].....	(株)白浜測量設計
西日本コントラクト(株)	扇精光コンサルタンツ(株)	南興測量設計(株)
(株)西日本測量設計	(株)実光測量設計	(株)西田技術開発コンサルタント
日鉄鉦コンサルタント(株)九州本社	大栄開発(株)	(株)東九州コンサルタント
日本工営(株)福岡支店	大洋技研(株)	(株)都城技建コンサルタント
日本地研(株)	[熊 本].....	[鹿児島].....
富洋設計(株)九州支社	旭測量設計(株)	(株)久永コンサルタント
平和測量設計(株)	(株)有明測量開発社	(株)南日本技術コンサルタンツ
(株)ヤマウ	(株)九州開発エンジニアリング	(株)アジア技術コンサルタンツ
(株)唯設計事務所	(株)熊本建設コンサルタント	
	(株)建設サポートセンター	
	(株)興和測量設計	
	(株)ヒライ・コンサルタント	
	(株)水野建設コンサルタント	

次 回 の 予 告 (第140号 令和6年7月)

○九州本部2023年度 第4回CPD報告

編 集 後 記

今年は元旦の夕方に発生した令和6年能登半島地震で幕を明けました。過疎高齢化のかなり進んだ地域であり、都会から田舎の実家へ帰省していた家族が居たから助かった命もあったといった報道も目にしました。活断層の影響による地盤の隆起や半島特有の急峻な地形などもあり、被災したインフラの復旧は目途すら立っていない状況もあるようです。被災した地域の日も早い復旧・復興を願わずにはいられません。

私事ですが、昨年の6月から始まった東京での単身赴任生活ですが、家庭の事情により4月末で東京を離れ、再び九州へ戻ることになりました。5月からは久留米の公益財団法人に勤務する予定となっております。短い東京生活となりましたが、日本の中枢で見て感じたことを、九州の地で改めて活かしていければと考えています。(松田)

編集：広報委員

【福 岡】 久保川孝俊、棚町 修一、西尾 行生
長野 義次、原田 正則、松田 敦
【北九州】 宮崎 照美 【佐 賀】 合志 勉
【長 崎】 清水 正明 【大 分】 竹内 一博
【熊 本】 沼地 英二 【宮 崎】 満留 康裕
【鹿児島】 高畦 博

発 行：公益社団法人 日本技術士会九州本部
〒812-0011 福岡市博多区博多駅前3-19-5
(博多石川ビル6階D2号室)
九州本部： ☎(092)432-4441
FAX(092)432-4443
E-mail:pekyushu@nifty.com
九州本部ホームページURL：
<http://www.pekyushu.com/>
印 刷：株式会社チューエツ